

人口問題研究所
研究資料第186号
昭和43年10月25日

Institute of Population Problems
Research Series, No. 186
October 25, 1968

貸
出
用

全国市部郡部別標準化人口動態率

〔昭和5年全国人口標準〕

大正9年～昭和40年各国勢調査年次

STANDARDIZED VITAL RATES BY URBAN AND RURAL
AREAS FOR ALL JAPAN: 1920~1965

厚生省人口問題研究所
INSTITUTE OF POPULATION PROBLEMS
MINISTRY OF HEALTH AND WELFARE
Tokyo, Japan

序 文

われわれは、人口静態統計ならびに人口動態統計を基礎として、人口問題の研究に必須な諸種の主要指標の計算を行なっている。その代表的なものの一つに標準化人口動態率の算定があるが、そのわが国全国に関するものとして、すでに人口問題研究所研究資料として『わが国の年次別標準化人口動態率 大正9年～昭和35年』（第155号）および『全国人口の再生産に関する指標 昭和35年～40年』（第178号）を公表し、さらに都道府県別資料として『都道府県別標準化出生率〔昭和5年全国人口標準〕 昭和5年・25年・30年・35年』（第167号）、『都道府県別標準化死亡率〔昭和5年全国人口標準〕 昭和5年・25年・30年・35年』（第169号）、『都道府県別標準化人口動態率〔昭和5年全国人口標準〕—大正14年を中心とする—』（第176号）および『都道府県別標準化人口動態率〔昭和5年全国人口標準〕 昭和40年』（第180号）を公表してきた。

この資料は、上記の各資料に続く標準化人口動態率一連の資料であり、その内容は、かねて各方面より要望の強かつた全国市部・郡部に関する標準化人口動態率の大正9年～昭和40年の各国勢調査年次についての算定結果である。市部・郡部の単位地域である市町村といったような地域的な統計を扱う場合、その境域の変更が常に問題となる。その点、ここでは必ずしも境域の調整を図っていない。その辺に結果の対比に若干の問題も残るが、大勢にはさほどの影響はあるまいと思われる。本資料が大方の利用に役だてば幸いである。

この資料の作成は、資料課の山口喜一、山本道子両技官が担当し、これに矢島昭子技官が協力したものである。

昭和43年10月25日

厚生省人口問題研究所長

館 長

FOREWORD

This number contains figures of standardized (indirect method) rates of birth, death and natural increase by urban (all shi) and rural (all gun) areas for all Japan over the past decades from 1920 to 1965. Which have been calculated by the Institute. The standard population used is the total population of Japan at the 1930 Population Census.

This number has been prepared by Mr. Kiichi YAMAGUCHI and Mrs. Michiko YAMAMOTO, Documentation Section of the Institute, assisted by Miss Akiko YAJIMA of the same Section.

October 25, 1968

Minoru TACHI, Director
Institute of Population Problems
Ministry of Health and Welfare
Tokyo, Japan

目 次

I	計算の方法および使用した資料	1
II	結果の説明	6
III	算定結果表	
第1表	昭和5年全国人口を標準とする間接標準化人口動態率摘要 —— 全国・市部・郡部：大正9年～昭和40年	16
第2表	昭和5年全国人口を標準とする間接標準化出生率計算表(1) 全女子人口による場合—— 全国・市部・郡部：大正9年～ 昭和40年	20
第3表	昭和5年全国人口を標準とする間接標準化出生率計算表(2) 有配偶女子人口による場合 —— 全国・市部・郡部：大正9 年～昭和40年	24
第4表	昭和5年全国人口を標準とする間接標準化死亡率計算表 —— 全国・市部・郡部：大正9年～昭和40年	28
参考図 1	全国の標準化および普通人口動態率の推移	17
2	市部の標準化および普通人口動態率の推移	18
3	部郡の標準化および普通人口動態率の推移	19
4	標準化および普通出生率の全国・市部・郡部別比較	27
5	標準化および普通死亡率の全国・市部・郡部別比較	38

CONTENTS

I.	Methodological note and statistical sources used	1
II.	Note on the trend in standardized vital rates by urban and rural areas	6
III.	Computed tables	
Table 1.	Standardized vital rates by the indirect method: Summary for 1920 to 1965	16
Table 2.	Standardized birth rates by the indirect method, (1) Using age- specific fertility woman: 1920 - 1965	20
Table 3.	Standardized birth rates by the indirect method, (2) Using age- specific fertility per married woman: 1920 - 1965	24
Table 4.	Standardized death rates by the indirect method: 1920 - 1965	28

I 計算の方法および使用した資料

1. 方法

地域別人口現象、とくにその人口動態を観察するに当たつてきわめて重要な問題の一つは、各地域がその人口の男女比、年齢構造や配偶関係構造などを異にするということである。たとえば、農村部においては青壮年人口の割合が少なく、また男人口に比し女人口が多い。都市部においては反対に青壮年人口が多く、とくに男人口が多いことが一般である。これらの人口の基本構造は、人口動態に直ちに影響を及ぼすから、人口動態の地域的比較のためには、これらの構造上の差異を除去する必要が生ずる。また、同じ地域の人口でも年次によつてその構造が異なるのが普通である。

したがつて、そのような男女、年齢構造や配偶関係構造の相違によつて受ける影響を除くことが望ましい場合には、いわゆる標準化という操作を行なう。すなわち特定の標準となるべき基本構造を持つ人口を仮定し、各地域の人口動態が、この標準人口のもとに発生した場合を考察すれば、各地域が現実に持つ人口構造の差異を除去した人口動態率を求めることができ、地域間あるいは年次間の相互比較が可能となる。

標準化の方法には直接法と間接法とがあるが、この資料で用いた標準化人口動態率の計算は、任意標準人口標準化法¹⁾の間接法²⁾によるものである。直接法を用いなかつた理由は、市部・郡部について女子の年齢別特殊出生率や男女、年齢別特殊死亡率を取得しえなかつた資料面の制約による。

1) 詳しくは、次掲の文献を参照されたい。

館 稔「我が国社会保健状態に関する一つの人口統計学的指標——我が国死亡率標準化に就いて——」『人口問題』第一巻第三号、昭和11年4月。

館 稔「我が国人口の地方別増殖力に関する人口統計学的一考察(上)——我が国標準化出生率に就いて——」『人口問題』第一巻第四号、昭和11年12月。

館 稔「形式人口学——人口現象の分析方法——」古今書院、1960年。

任意標準人口標準化法についての文献は数多いが、その代表的なものは、上掲「形式人口学」の598ページの脚注に詳しく掲げられている。

2) 本資料における算定は間接法によつているので、ここでは直接法の説明は省略する。その方法および間接法との関係については、注1)の文献にも掲げられているが、すでに刊行の次の研究資料も参照されたい。

厚生省人口問題研究所(小林和正・山口喜一担当、山本道子協力)「わが国の年次別標準化人口動態率 大正9年～昭和35年」(研究資料第155号)、昭和38年8月。

間接標準化法の一般的な計算手続きは次のとおりである。

(1) 標準化出生率

標準人口の $f_r(s, \alpha)$ を、比較せんとする N 個の人口の第 i 番めの人口の女子再生産年齢人口の年齢構造 $P_r(i, \alpha)$ に適用して、この場合の出生率、すなわち指標出生率を求め、標準出生率、すなわち標準人口の $f_r(s, \alpha)$ による標準人口の普通出生率との比を求め、これを補正係数（標準化係数） $c(i)$ として、比較しようとする人口の普通出生率 $b(i)$ にこれを乗じて補正するものである。すなわち、

$$\text{指標出生率, } b_i(i) = \frac{\sum_{\alpha=15}^{40} P_r(i, \alpha) \times f_r(s, \alpha)}{P(i)}$$

$$\text{標準出生率, } b(s) = \frac{\sum_{\alpha=15}^{40} P_r(s, \alpha) \times f_r(s, \alpha)}{P(s)} \dots\dots \text{標準人口の普通出生率}$$

$$\text{標準化係数, } c(i) = \frac{b(s)}{b_i(i)}$$

$$\text{標準化出生率, } b_s(i) = b(i) \times c(i)$$

この資料で用いた記号の説明は次のとおりである。

$P_r(i, \alpha)$: 標準化しようとする第 i 番めの人口の再生産年齢女子の α 歳人口

$f_r(s, \alpha)$: 標準とすべき人口の再生産年齢女子の α 歳の特殊出生率

$P(i)$: 標準化しようとする第 i 番めの人口の総人口

$P_r(s, \alpha)$: 標準とすべき人口の再生産年齢女子の α 歳人口

$P(s)$: 標準人口における総人口

出生のすべて、あるいは大部分が有配偶女子から起こると考えるときには、人口を、上記の全女子人口 $P_r(\alpha)$ を有配偶女子人口 $P_{m,r}(\alpha)$ に置き替え、その他は全く同様の計算手続きをもつて算出すればよい。その結果はすなわち、年齢構造とともに配偶関係構造の差異をも除去した標準化出生率が得られる（この資料で標準化出生率の(2)として示した結果がそれである）。なお、 $f(\alpha)$ あるいは $P(\alpha)$ の添字 r は女子人口、同じく m は有配偶者を示すものである。

(2) 標準化死亡率

死亡率の算出方法は、出生率標準化に準じる。ただ標準化死亡率の計算の場合には、年齢別特殊死亡率を男女別に算出して行なうのが普通である。一応算式を示すと、

$$\text{指標死亡率, } d_i(i) = \frac{\sum_{x=0}^{\omega} P(i, x) \times m(s, x)}{P(i)}$$

$$\text{標準死亡率, } d(s) = \frac{\sum_{x=0}^{\omega} P(s, x) \times m(s, x)}{P(s)} \dots\dots \text{標準人口の普通死亡率}$$

$$\text{標準化係数, } c(i) = \frac{d(s)}{d_i(i)}$$

$$\text{標準化死亡率, } d_s(i) = d_i(i) \times c(i)$$

ただし, $m(s, x)$: 標準人口の男女, 年齢別の x 歳の特殊死亡率

$P(i, x)$: 標準化しようとする第 i 番めの人口の男女別 x 歳人口

$P(s, x)$: 標準人口の男女別 x 歳人口

$d(i)$: 標準化しようとする第 i 番めの人口の普通死亡率

その他は出生率の場合に準ずる。なお, 表中の $m(x)$ あるいは $P(x)$ の添字 M は男子人口, F は出生率の場合と同様女子人口を示す。

(3) 標準化自然増加率

上記によつて求められた出生率と死亡率の差として算出される。すなわち,

$$\text{標準化自然増加率, } r_s(i) = b_s(i) - d_s(i)$$

標準化自然増加率の性質は, 同出生率と死亡率との性質によつて定まる。

(4) 標準人口

標準人口にどの人口を採用するかはこの標準化法の名称どおり任意であるが, この資料で採用した標準人口は, 昭和5年の全国人口(沖縄県を含む)³⁾ わが国の昭和5年における実際人口の男女年齢別構造は, 他の年次に比べて最も安定した基本構造を有しており, 本研究所算定の人口再生産諸指標の基準年次として常に用いられているものである。

2. 基礎資料の補正

標準人口の年齢別特殊出生率および年齢別特殊死亡率は, あらかじめ算定されて

3) 標準人口に昭和5年の全国人口を選択することについての説明は, 注1)の「形式人口学」にも記されているが, より詳細については, 次掲の論稿を参照されたい。

館 稔「人口動態率標準化の理論——形式人口学の見地から標準人口選択の問題を中心として——」
『厚生指標』第7巻第3号, 昭和35年3月。

いる間接標準化における常用の数値である⁴⁾。これらは、率算出の基礎数値である母の年齢別出生数、男女年齢別死亡数には、年齢不詳の数値（出生数は、母の年齢が15歳未満、50歳以上の数字も不詳に含める）も既知の年齢別数値をウェイトとして案分、各年齢に配分した補整数値を用いている。また、標準化しようとする各年、各地域の人口についても、年齢不詳あるいは配偶関係不詳がある場合は、同様にして各年齢、各配偶関係に配分した人口を用いた。なお、市部・郡部の境域は単位地域（市町村）が常に変動するものであるが、データである「国勢調査報告」あるいは「人口動態統計」に掲載されているままの数字をとつた。すなわち、年首とか年央、あるいは10月1日現在といったような、ある時点で境域を統一するという配慮はしていない。この資料の利用に当たっては、以上の点に注意を要する。

本資料における戦前の数値は、昭和15年を除き沖縄県を含んでいる。

3. 使用した資料

〔大正9年〕

人 口：内閣統計局「大正九年国勢調査報告 全国の部第一巻 人口 体性
出生地 年齢 配偶関係 国籍民籍 世帯」昭和3年10月

出生・死亡数：統計局編纂「大正九年日本帝国人口動態統計」大正13年3月

〔大正14年〕

人 口：内閣統計局「大正十四年国勢調査報告 第二巻 全国結果表」大正15年12月

出生・死亡数：内閣統計局編纂「大正十四年日本帝国人口動態統計」大正15年12月

〔昭和5年〕

人 口：内閣統計局「昭和五年国勢調査報告 第一巻 人口 体性 年齢 配偶関係 出生地 民籍国籍 世帯 住居」昭和10年9月

出生数：内閣統計局「昭和五年父母ノ年齢別出生及死産統計」昭和10年3月

死亡数：内閣統計局編纂「昭和五年日本帝国人口動態統計」昭和6年12月

〔昭和10年〕

人 口：内閣統計局「昭和十年国勢調査報告 第一巻 全国編」昭和14年2月

出生・死亡数：内閣統計局「昭和十年人口動態統計」昭和12年3月

4) 前掲、注2)の研究資料を参照されたい。

〔昭和15年〕

人口：総理府統計局「昭和25年国勢調査報告 第八卷 最終報告書」昭和30年3月

出生・死亡数：内閣統計局「昭和十五年人口動態統計」昭和17年3月

〔昭和22年〕

人口：総理府統計局「昭和22年臨時国勢調査結果報告 (其の7) 年齢別人口」昭和24年7月

出生・死亡数：厚生大臣官房統計調査部「昭和22年人口動態統計 (第1分冊) 第1, 2表」昭和24年12月

〔昭和25年〕

人口：総理府統計局「昭和25年国勢調査報告 第四卷 全国編 I 男女別・年令・配偶関係・国籍又は出身地・出生地・教育・世帯・住宅」昭和29年7月

出生・死亡数：厚生省大臣官房統計調査部「昭和25年人口動態統計 (第2分冊) 第26表」昭和27年12月

〔昭和30年〕

人口：総理府統計局「昭和30年国勢調査報告 第三卷 全国編 その一 男女の別・年令・配偶関係・国籍・世帯・住宅」昭和34年8月

出生・死亡数：厚生省大臣官房統計調査部「昭和30年人口動態統計 上巻」昭和32年3月

〔昭和35年〕

人口：総理府統計局「昭和35年国勢調査報告 第3卷 全国編 その1 年令・配偶関係・国籍・人口移動・教育・出生力・労働力状態・産業・職業・世帯・居住状態」昭和39年2月

出生・死亡数：厚生省大臣官房統計調査部「昭和35年人口動態統計 上巻」昭和37年8月

〔昭和40年〕

人口：総理府統計局「昭和40年国勢調査報告 第3卷 全国編 その1 年齢・男女・配偶関係・国籍・労働力状態・産業・職業・従業上の地位・世帯」昭和42年3月

出生・死亡数：厚生省大臣官房統計調査部「昭和40年人口動態統計 上巻」昭和43年2月

II 結果の説明

ここに算定した結果(第1表)について、簡単なメモ程度の説明を加えてみよう。

1. 戦前についての観察

(1) 出生率

全国の標準化出生率の戦前の傾向としては、全女子人口についての出生率(標準化出生率①)は大正9年以降一貫して低下を示していた。すなわち、大正9年の36.2%から以後5年めごとに35.3, 32.4, 30.9を経て、昭和15年の28.3%へと低下したのである。

わが国の出生率が低下を始めたのはおよそ大正9年ごろからであり、その普通出生率は36.2%であつたのが、その後5年めごとに34.9, 32.4, 31.6, 29.5%と漸次低下してきた。普通率は、年齢構造の変化の影響を十分考慮に入れていないという点に問題があり、この欠陥を回避して、年齢構造の変化によつてかく乱されない出生率を表現するものとして標準化率が用いられるのであるが、大正9年から昭和15年までのそれぞれの低下率を見ると、標準化出生率では21.8%, 普通出生率では18.5%である。このことは、年齢構造の変化を抽象した、その意味で純粋な出生率の低下は、普通出生率が示しているよりもいつそう大きかつたと言ふことができる。

次に、年齢構造とともに配偶関係構造の差異をも除去した出生率(標準化出生率②)を見ると、また異なつた傾向が看取される。この標準化出生率では、大正9年以降低下の傾向を示して昭和5年に至り、この間34.9%から32.4%へと7.2%の低下を示しているが、昭和10年においては5年に比べて、わずかではあるが(0.9%)回復を見せている。再び15年には低下したが、大正9年に対する低下率は8.9%にすぎず、前に見た①の標準化出生率はもちろんのこと、普通出生率の低下率よりも格段に低い。換言すれば、配偶関係構造の変化を抽象した出生率では、その低下の幅はごくわずかであつたということになる。

市部郡部別には、各年次ともに市部の出生率はいずれの率も郡部のそれに比し著しく低い。それぞれの傾向としては、市部においては、大正9年に比し14年ほどの出生率で見ても増加を示している。すなわち、①の標準化出生率では25.0%から25.8%へと3.2%, ②のそれは26.1から26.5%へと1.5%上昇しているのである。これは、普通出生率における28.3%から29.1%へと2.8%上昇したのと軌を一にしているが、その度合いは①の標準化出生率の場合が最も大きく、②の

それが最も小さかつた。それ以降は、(1)の標準化率は大正14～昭和5年に10.5%という大きな低下を示し、その落下の余勢が15年まで続いた。(2)の標準化率も昭和5年に一度低下(大正14年に対して6.4%減少)したが、10年には再び回復して15年へと横ばいを示している。また普通出生率は、大正14年から昭和5年へとこれまた8.9%と最も大きな低下を示したが、それ以降横ばいから15年へわずかな下降を示した。このように、昭和5年以降の各出生率の傾向は三者3様の方向をたどつたわけである。

この間、郡部においては大正9年～昭和5年に各率とも低下であつた。その度は、普通率の9.8%減少、(1)の標準化率8.2%減、(2)の標準化率5.4%減の順であつた。それ以降は、普通出生率が引き続いて昭和5年～10年において微落(0.3%減)であつたが、15年まで低下(昭10～15, 7.3%減)の一途をたどつたのに対し、標準化率は、両出生率とも昭和5年～10年には逆転上昇((1)の標準化率は0.3%, (2)は4.9%の増加)を示し、15年へ再び低下((1)の率は7.5%減, (2)は1.1%減)するといった傾向であつた。しかし、(1)の標準化出生率は途中若干の上昇はあつたが微差であり、傾向としては普通出生率の一貫して低下に比するものがあり、(2)の標準化出生率の方が変化が激しかつたと言えよう。

以上、市部郡部の出生率を比べると、どちらかというとも郡部の動きの方が全国のそれに類似しているごとくである。また、出生率の市部・郡部隔差は年を追つていくぶん縮小されてきている。すなわち、市部を100とした郡部の指数で見ると、普通出生率では大正9年に133.9であつたのが、昭和5年に129.1、昭和15年には121.5となつた。また(1)の標準化出生率で見ると、同じく大正9年では156.4であつたのが、昭和5年155.4、15年154.2とわずかずつではあるが低くなつている。しかし、(2)の標準化出生率の場合では大正9年が141.4、昭和5年が140.7、15年では142.0と、むしろ高い指数を示しているのが注目される。

(2) 死亡率

全国の死亡率は大正9年(スペインかぜの流行)以降顕著な低下を示し、昭和5年においては大正14年に比し、標準化率は20.1から18.2%へと9.5%、普通率は20.3から18.2%へ10.3%の減少を示しているが、昭和5年～10年は前者が6.6%、後者が7.7%、続く昭和10年～15年には同じく2.4%、1.8%と引き続いて低下を見せたが、その勢いはかなりゆるやかになつている。そして両者の動向はほぼ一致しており、大正9年から昭和15年の低下率は、標準化死亡率が

34.9%，普通死亡率が35.0%となつている。

従来一般に、普通死亡率をもつて比較すれば郡部の死亡率は市部に比べて明らかに高い。これは標準化してみれば全く逆になつて、市部に比べて郡部は低くなるのである。市部においては、昭和5年(18.8%)は大正14年(21.8%)に比し13.8%，昭和10年(17.0%)は同5年に比し9.6%という顕著な低下を示し、全国の死亡率低下の速度よりもいつそう著しいものがあつた。しかるに郡部においては、昭和5年(18.0%)は大正14年(19.9%)に比し9.5%，昭和10年は同5年に比し5.6%の低下であつて17.0%となり、市部・郡部の標準化死亡率は並び、15年に至つて、遂にわずかながら郡部は市部よりも高くさえなつている。要するに、死亡率低下は市郡共通の現象ではあるが、標準化率において従来市部に比し低位を保つてきた郡部の死亡率が、その低下の速度において市部に劣るために、遂に昭和10年に至つて市部の差を失し、以降逆転して、戦後最近にかけて普通・標準化ともに市部死亡率が郡部のそれを下回ることになつた。

普通死亡率の比較において、市部の死亡率は郡部のそれよりも常に低い水準にあるが、これは、市部と郡部の年齢構造の差異によつてもたらされるもので、働き盛りの年齢層の比率が高い市部と、死亡率の比較的高い年齢層(幼少・老年人口が多い)を多くかかえる郡部とでは、当然に普通死亡率に差が出てくる。そこで年齢構造を共通のものとした標準化死亡率によると、上記のごとく、大正から昭和の初期にかけてはむしろ市部の方が郡部よりも高かつた。その後、年々市部の死亡は改善されて、昭和15年には普通率と同様に郡部よりも低い死亡率を示すようになった。しかし、市部・郡部それぞれの普通死亡率と標準化死亡率を比べてみると、市部は例外なく標準化率が普通率を上回り、逆に郡部のそれは、標準化率の場合の方が低くなつているのである。この現象は、次に見る戦後の場合も同様である。

2. 戦後についての観察

(1) 出生率

第2次世界大戦終了直後のいわゆる「ベビーブーム期」が過ぎて以後のわが国人口の年齢構造は、幼少年人口割合の急速な縮小によつて、高齢化に向かつて激しい変化を続けてきた。したがつて、出生力の年次推移を考察するには、年齢構造の変化の要因を内包した普通出生率の変化によつて観察するのは、戦前以上に望ましいことではない。

昭和25年以降の全国人口の年齢構造の変化は、普通出生率をいくぶん高めるよ

うに働いてきたことが考えられる。たとえば、出生の主たる担当者である15～44歳有配偶女子人口の総人口中に占める割合の変化を、国勢調査年次について見ると、昭和25年と30年とはそれぞれ13.1%と13.0%とで、ほとんど変わらないが、35年と40年とはそれぞれ13.7%および14.8%に拡大している。

標準化出生率によつてみても、戦後出生力の年次変化の傾向は、基本的には普通出生率の示すものとほとんど変わりはない。すなわち、全国における(1)の標準化出生率は、昭和22年に30.7%であつたのが、25年には25.3%に低下し、以後急速に低下して、35年には14.5%を記録した。このころを底として上昇に転じ、昭和40年には15.2%となつた。昭和25年から35年までの低下率は42.7%であるが、普通出生率における昭和25年の28.1%から35年の17.2%までの低下率は38.8%、また昭和30年～35年は同じく14.2%および11.3%であつて、標準化出生率で測つた方が低下率が大きく出る。これは上記のような年齢構造の変化の影響によるものである。また、昭和35年～40年の間の出生率の上昇について比較してみると、普通出生率では17.2%から18.6%へと8.1%の増加率であるが、標準化出生率では4.8%の増加率にとどまつている。この差異もまた、上記と同様の原因によるものである。

配偶関係構造の変化の差異を除去して比較する(2)の標準化出生率の傾向も、上に見た他の出生率のそれと大差ないが、出生率そのものはすべての年次で最も高率を示している。この率も昭和25年から35年にかけて低下を続け、この間における減少は30.3%から18.2%へと39.9%の低下であつた。その後40年には18.6%と上昇したが、その増加率は2.2%で、他の出生率の増加率に比し最も低い。そのため、従来最も高い出生率であつたのが40年には普通出生率と同水準となつた。

市部・郡部別には、戦前の一貫した市部低位であつた出生率は、戦後もその傾向は変わらず延長されてきたが、年を追つて徐々に差がつかつてきて、ごく最近ではむしろ郡部の出生率の方が市部のそれを下回る場合も現われるに至つた。すなわち普通出生率では、昭和22年において市部が32.6%、郡部が35.2%と市部の方が2.6%低かつた。以後、25年では4.0%、30年では4.1%とより大きな差であつた。さらに35年でも市部が17.1%、郡部が17.4%で市部の方が低かつたが、その差はわずかに0.3%と縮小し、最近の40年では市部が19.6%、郡部が16.3%と、遂に逆転したのである。その差も3.3%というかなり大きい差となつて現われている。これは、近年における人口移動の動向、すなわち著しい人口の都

市集中の結果により、これまで出生率が比較的高かつた人口流出地域、つまり農村地域（郡部）においては、人口流出が再生産年齢人口を主力とするため、その年齢構造は出生に不利となり、普通出生率を引き下げてくる。反対に人口を流入する地域、つまり大都市とその周辺地域（一応市部としてみてもよからう）においては、出生率はそれだけ引き上げられてくるということになる。こうして、出生率の地域差は人口移動による人口基本構造の変化によつて縮小する傾向にあつたわけである。

次に、人口の年齢構造の地域的差異を除去した標準化出生率によつてみると、基本的には普通出生率の場合と同様に地域差縮小の傾向にある。すなわち、(1)の標準化率では昭和22年が市部の出生率27.0%、郡部は32.7%で、5.7%郡部の方が高かつた。以後、25年では6.9%、30年が5.9%、35年が2.6%、そして40年では0.2%と、いずれも郡部の出生率が高くなつている。これは普通率において見られた40年における逆転ほどではないにしても、傾向としては明らかに隔差縮小であり、もはや市部・郡部の出生率の水準は同位にあると言ふことができよう。普通率との若干の差異は、年齢構造の変化の影響によるものである。さらに、配偶関係を考慮に入れた(2)の標準化出生率では、普通出生率と同じく、昭和40年では1.4%の市部優位となつているのである。この標準化率では、昭和22年がデータの関係で算定不能であるが、25年が6.3%、30年が5.3%、35年が1.2%と、いずれも郡部の出生率が高かつたのである。

なお、市部郡部各出生率の戦後における動向は、市部は全国と同様に、いずれの率も35年までは低下、40年に逆転上昇を示しているのに対して、郡部はいずれの率も40年まで一貫して低下を続けている点が注目される。これによつて、市部郡部の出生率の隔差が解消され、さらには逆の方向をたどる可能性が生じたわけである。ちなみに、昭和25年から40年の間における各出生率の低下率を示してみると、市部では全国の場合と同様、(1)の標準化出生率が最も著しくて28.8%、次いで(2)の標準化出生率で28.0%、普通出生率は23.4%と最も緩慢であつた。また、郡部の場合は少し異なり、最も著しい低下を示したのは(2)の標準化率で46.2%、次が(1)の標準化率で45.6%、そして普通出生率が44.9%である。いずれにしても、郡部の出生率の減少の勢いはきわめて激しいものがある。

(2) 死亡率

前記のごとく、戦前における全国の普通死亡率と標準化死亡率との懸隔は、一般に僅小であつた。この傾向は、戦後になつても大体において存続した。すなわち、その差は終戦直後の昭和22年において0.7%で、やや大きかつたが、25年以降

の各年は、0.1～0.3%の範囲内で間接標準化死亡率の方が普通死亡率よりも高めとなつている。

ここにあって「間接」を付したのは、別途に算定されている直接法による全国の標準化死亡率（標準人口は同じく昭和5年全国人口である）の場合では、⁵⁾昭和25年を境として、間接法による標準化死亡率の場合とは異なり、標準化率の方が普通率よりも低くなつているという事実があるためである。このように、同じ標準化率でも算定の結果が異なるということは、その解析上はなはだぐあいの悪いことであるが、どちらが良くて、どちらが悪いということは断定しがたい。ただ、直接法と間接法とでは標準人口の普通死亡率を補正する場合に、標準化しようとする人口の死亡秩序と標準人口の死亡秩序との比率を用いる点では同じであるが、その両人口の死亡秩序の判定基準として、直接法では標準人口の年齢構造を、間接法では標準化しようとする人口の年齢構造を使用するところに相違があるということである。標準化しようとする諸人口の間で、またそれらと標準人口との間で、年齢構造にかなりの差異がある場合は、間接法による標準化値は直接法による標準化値とかなり食い違つてくることを考えなければならない。どちらかと言えば、直接法による計算が可能なかぎり、それに従うことが望ましいように思われる。⁶⁾ここに示した標準化死亡率を扱う場合には、以上の点に留意をしなければならない。しかし、間接法自体決して誤つた方法ではないし、また、市部・郡部別の標準化率を算定する場合には、材料の制約上（年齢別の死亡率あるいは出生率がとれない）、間接法によらざるをえないのであるから、その問題はおいて、次に市部・郡部別の死亡率の観察を行なうこととする。

市部における死亡率も、戦前と同じくやはり標準化した率の方が普通率よりも高く示されている。しかし、その差は昭和22年には1.7%であつたのが、25年、

5) 本研究所が算定公表している一連の全国および都道府県別標準化人口動態率は、すべて直接法を用いて計算されている。数値の比較は、その算定結果を掲載した諸資料によらねたい。全国値についての代表的なものは、前掲の注2)の研究資料のほか次のものがある。

厚生省人口問題研究所(山口喜一担当、金子武治・矢島昭子協力)「全国人口の再生産に関する指標 昭和35年～40年」(研究資料第178号)、昭和42年10月。

6) 直接法と間接法との関係についての詳細は、前掲の注1)、2)の文献を参照されたいが、間接法は直接法において必要な標準化すべき年次あるいは地域各人口の年齢別特殊死亡率や出生率を求める材料が限られているとか、材料はあるがわざわざ計算する余裕がないというような場合の煩を避けることが眼目である。つまり、標準化法の適用範囲を拡張し、かつ計算を容易にしようとするのが間接法であり、標準化法としての間接法の地位は、直接法の代用であり簡便法であると言えよう。

30年、35年はそれぞれ0.7%、最近の40年は0.3%と縮小している。一方、郡部では昭和22年が戦前戦後を通じて唯一の標準化率過大であつたが、25年以降は再び戦前と同じく郡部の特色である標準化率低位となり、その差も30年0.2%、35年0.3%、40年0.7%と徐々に拡大してきている。

次に、市部と郡部の標準化死亡率を対比すると、戦前とは全く逆に、市部の死亡率は郡部の死亡率よりも低くなつている。すなわち、まず昭和22年にはいずれも15.3%と同率を示し、続く25年では市部9.9、郡部11.5と、1.6%の郡部高位となり、以後もほぼこの程度に郡部の高率となつている。また、普通死亡率は戦前から戦後最近まで郡部高率に終始している。いずれにしても、市部郡部にかかわらずすべての死亡率は低下しているが、その度は市部の場合の方が大きい。そして市部郡部ともに、普通率の低下よりも標準化率の低下の方が著しい。すなわち、市部においては昭和22年の標準化死亡率15.3%から40年の6.6%まで、実に56.9%という高い低下率であつた。これに対して、同期間における普通死亡率の低下は13.6%から6.3%へと53.7%であり、これまたかなり高い低下率であつたが標準化率の場合よりはいくぶんゆるやかである。また、郡部では標準化率が昭和22年に15.3%であつたのが40年には8.2%となり、46.4%低下し、普通率では同じく15.0%から8.9%へと40.7%の低下にとどまつている。さらにこの低下の度合いを、起点を25年にずらして40年との間を見てみると、やはり市部の標準化率が最も高い低下率で33.3%、次いで市部の普通率31.5%、それから郡部の標準化率が28.7%、同じく普通率が25.2%となつている。戦後の傾向としては、市部の死亡率は低下の一途、郡部のそれは近年やや停滞的である。そして全国の傾向は市部人口のウェートの大きさに影響されて、やはり低下の方向をたどつていたのである。ちなみに、この戦後の死亡率低下の傾向を期間を細分した変動率で示すと次のようである。まず市部の標準化率は、昭和22年～25年が35.3%の低下、25年～30年が23.2%、30年～35年が1.3%、そして35年～40年が12.0%といずれも低下を示している。同じく普通率では、22年～25年が32.4%、25～30年が25.0%、30～35年が1.4%、35～40年が7.4%と、これまたすべて低下である。次に郡部の場合、標準化率では22年～25年が24.8%、25～30年が24.3%、30～35年が2.3%、そして35～40年が3.5%とすべて低下であつた。これに対して、普通率では22年～25年は20.7%、25～30年は25.2%、30～35年では1.1%と低下が続いたが、最近の35年～40年では逆に1.1%とわずかではあるが上昇に転じている。

同じようにして全国の傾向を見ると、昭和22年～25年では標準化死亡率が28.1%、普通死亡率が25.3%の低下率を示していたが、続く25年～30年では標準化率が26.4%、普通率が28.4%の低下で、市部・郡部で見たのと同様に、低下の度合いが逆になっている。これは、いずれも年齢構造の変化の影響によるもので、標準化死亡率では22～25年で急な低下を示し、普通率を上回つたが、25～30年では低下率そのものはやはり大きい、普通率のそれを下回っている。次に30年～35年であるが、この間は最も低下が緩慢であつて、標準化率では2.5%、普通率では2.6%であつた。そして最近の35年～40年では若干勢いをもり返して、標準化率では8.9%、普通率でも6.6%の低下率を示している。

〔付 記〕

以上の人口動態率の変化と並行しながら、市部・郡部人口の総人口のうちに占める位置も大幅に変化するに至つた。すなわち、次に掲示した参考表の1によつて明らかごとく、大正9年の市部・郡部人口割合は全国を100として18対82で

表1. 市部郡部別人口割合の推移 (%)

年 次	市 部	郡 部
大正 9	18.0	82.0
14	21.6	78.4
昭和 5	24.0	76.0
10	32.7	67.3
15	37.7	62.3
22	33.1	66.9
25	37.5	62.5
30	56.3	43.7
35	63.5	36.5
40	68.1	31.9

国勢調査結果による。境域はすべて各調査時現在のもの。

あつた。この比率は戦前逐年、市部が増加、郡部が減少していつたが、昭和15年でもなお、38対62を示していた。

その後、終戦直後における一時的な農村への人口還流の時期を除き、郡部人口の比重は戦後も一貫して減少傾向を示し、昭和25年においてほぼ15年と同じになり、25年から30年の間にその比率は逆転し、30年から35年の間に郡部は40%を割り、40年では市部が68%となり、郡部は32%にすぎない。もちろん、これには昭和28年以後に行なわれた町村合併促進による市部行政区面の拡大が、郡部人口割合の急減にかなり大きく影響を与えたことも事実であるが、

ともかく昭和10年における市部・郡部別人口割合は、40年には全くその地位が逆となつたわけである。

このような変化とともに、市部・郡部人口の出生の全国人口のうちに占める比重

も変化した。表2によれば、大正9年における総出生、すなわち全国を100とした市部・郡部出生割合は14対86であった。この比率は、逐年市部が増加、郡部が減少していったが、昭和15年ではなお、33対67と郡部の出生が約2倍を占めていた。終戦直後の22年では、一時的な郡部人口の増加に伴って、郡部の出生も69%弱とやや増加を示したが、その後年を追って低下し、25年から30年の間に市部・郡部間の比重関係は逆転して、以後、市部の出生割合が郡部をしのぎ、35年は63%、さらに最近の40年では、ほぼ7割に達している。

この資料に示された市部・郡部別の人口動態率を利用するに当たっては、以上の事象を背景として考察する必要がある。そして、その内にある市部・郡部の単位地域の変動をあわせ考えることも忘れてはならない。最後に、市・町村の数の推移を参考表の3として掲げておきたい。

表2. 市部郡部別出生割合の推移 (%)

年次	市部	郡部
大正 9	14.1	85.9
14	18.0	82.0
昭和 5	19.6	80.4
10	27.5	72.5
15	32.9	67.1
22	31.4	68.6
25	34.2	65.8
30	51.1	48.9
35	63.1	36.9
40	72.0	28.0

人口動態統計による。境域はすべて各調査時現在のもの

表3. 全国の市町村数の推移

年次	全市町村 (全国)	全市 (市部)	全町村 (郡部)	年次	全市町村 (全国)	全市 (市部)	全町村 (郡部)
大正 9	12,244	83	12,161	昭和 22	10,505	214	10,291
14	12,019	101	11,918	25	10,414	248	10,166
昭和 5	11,865	109	11,756	30	4,813	491	4,322
10	11,546	127	11,419	35	3,511	556	2,955
15	11,191	168	11,023	40	3,376	561	2,815

国勢調査結果による各年10月1日現在の市町村の数。東京都の区の存する区域は1市として扱っている。

Ⅲ 算 定 結 果 表

第1表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化人口動態率摘要
 — 全国・市部・郡部：大正9年～昭和40年

Table 1. Standardized Vital Rates by the Indirect Method:
 Summary for 1920 to 1965 (‰)

年次 Year	標準化人口動態率 Standardized vital rates					〔参考〕普通人口動態率 Crude vital rates			
	出生率 Birth rates		死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rates		出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural increase rate	
	(1)	(2)		(1)	(2)				
全 国 All Japan									
大正 9	1920	36.2	34.9	25.5	10.7	9.4	36.2	25.4	10.8
14	1925	35.3	33.8	20.1	15.2	13.8	34.9	20.3	14.7
昭和 5	1930	32.4	32.4	18.2	14.2	14.2	32.4	18.2	14.2
10	1935	30.9	32.7	17.0	13.9	15.6	31.6	16.8	14.9
15	1940	28.3	31.8	16.6	11.7	15.2	29.5	16.5	13.0
22	1947	30.7	—	15.3	15.4	—	34.3	14.6	19.7
25	1950	25.3	30.3	11.0	14.4	19.3	28.1	10.9	17.2
30	1955	16.9	21.5	8.1	8.8	13.3	19.4	7.8	11.6
35	1960	14.5	18.2	7.9	6.6	10.3	17.2	7.6	9.6
40	1965	15.2	18.6	7.2	8.0	11.4	18.6	7.1	11.4
市 部 Urban (All shi)									
大正 9	1920	25.0	26.1	28.3	3.3	-2.2	28.3	24.1	4.2
14	1925	25.8	26.5	21.8	3.9	4.6	29.1	18.8	10.2
昭和 5	1930	23.1	24.8	18.8	4.3	6.0	26.5	16.5	10.0
10	1935	22.5	25.5	17.0	5.5	8.4	26.5	14.7	11.8
15	1940	21.6	25.5	16.2	5.4	9.2	26.0	14.4	11.7
22	1947	27.0	—	15.3	11.7	—	32.6	13.6	19.0
25	1950	21.2	26.4	9.9	11.4	16.6	25.6	9.2	16.4
30	1955	14.5	19.2	7.6	6.9	11.6	17.6	6.9	10.7
35	1960	13.6	17.8	7.5	6.1	10.3	17.1	6.8	10.3
40	1965	15.1	19.0	6.6	8.5	12.4	19.6	6.3	13.3
郡 部 Rural (All gun)									
大正 9	1920	39.1	36.9	24.9	14.1	11.9	37.9	25.7	12.2
14	1925	38.4	36.0	19.9	18.5	16.1	36.5	20.7	15.9
昭和 5	1930	35.9	34.9	18.0	17.9	16.9	34.2	18.7	15.5
10	1935	36.0	36.6	17.0	19.0	19.5	34.1	17.8	16.3
15	1940	33.3	36.2	16.8	16.5	19.5	31.6	17.8	13.7
22	1947	32.7	—	15.3	17.5	—	35.2	15.0	20.1
25	1950	28.1	32.7	11.5	16.6	21.2	29.6	11.9	17.7
30	1955	20.4	24.5	8.7	11.7	15.8	21.7	8.9	12.8
35	1960	16.2	19.0	8.5	7.7	10.5	17.4	8.8	8.6
40	1965	15.3	17.6	8.2	7.1	9.4	16.3	8.9	7.4

昭和5年全国人口を標準とした任意標準人口標準化法の間接法によつて算出したもの。昭和10年以前は、旧沖縄県を含む人口、人口動態数によつて計算している。普通人口動態率の基礎数値も同じものによる。

標準化出生率は、次のように2種の計算を行なった。すなわち、(1)は各年における全女子の年齢別人口を標準人口の年齢別特殊出生率に適用して算出した標準化出生率、(2)は、同じく有配偶女子の年齢別人口を標準人口の有配偶女子年齢別特殊出生率に適用して算出したものである。したがつて、標準化自然増加率は2種の標準化出生率と死亡率の差として算出。すなわち、(1)は全女子人口による場合、(2)は有配偶女子による場合の出生率と死亡率の差を示す。

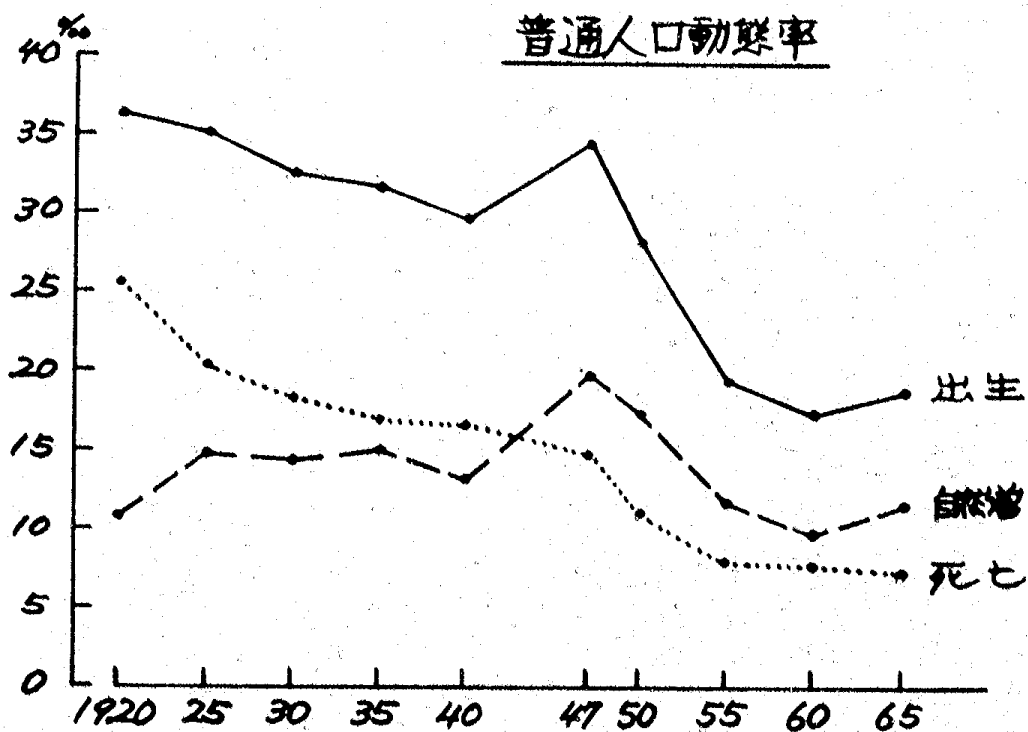
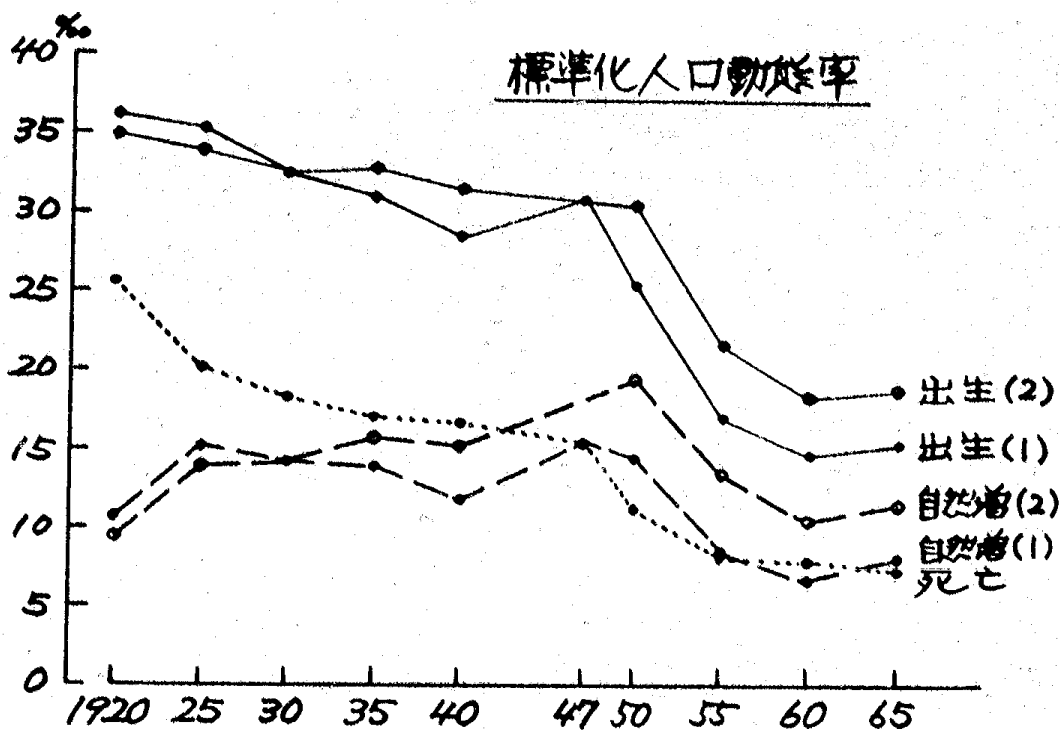
Prior to 1940, including Ryukyu Islands.

Standard population: All Japan population for 1930.

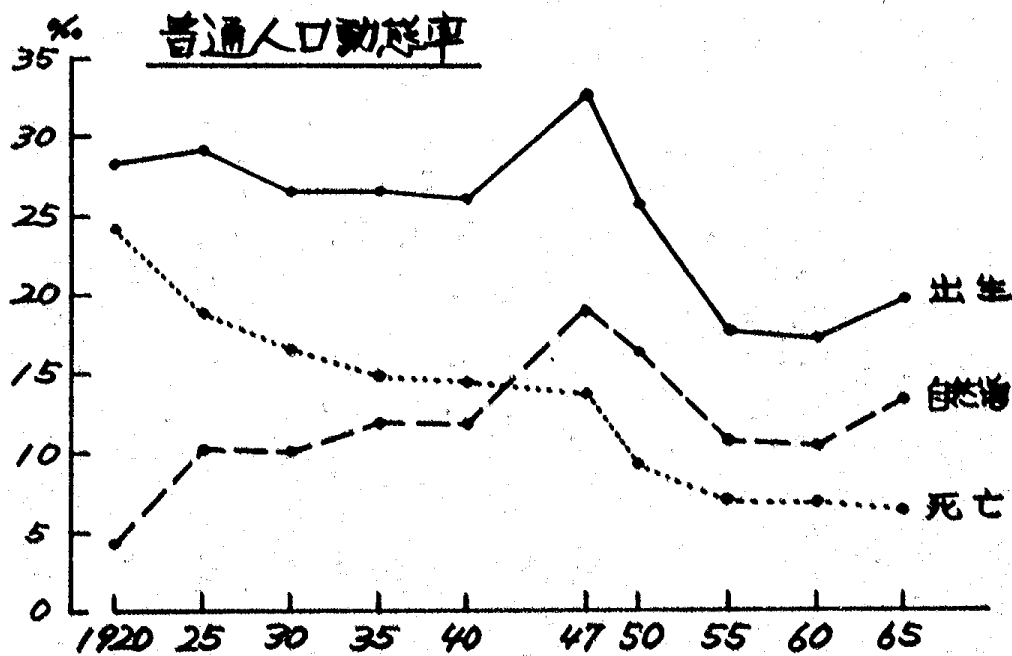
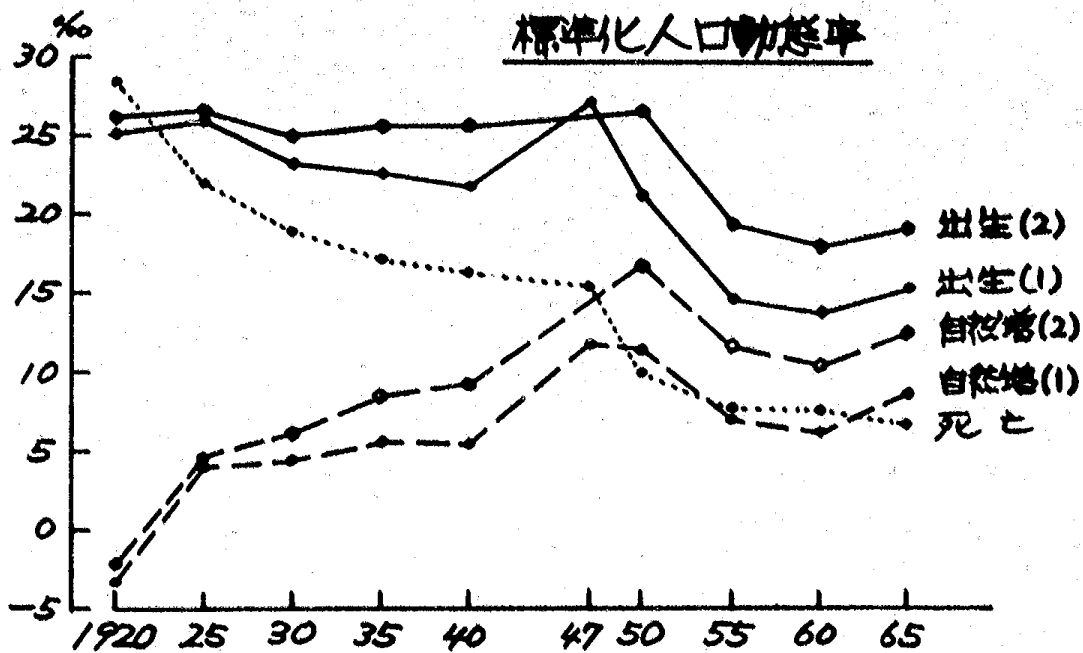
Column (1): Standardized rates basing on age structure and fertility of women of all marital statuses.

Column (2): Standardized rates basing on age structure and fertility of presently married women.

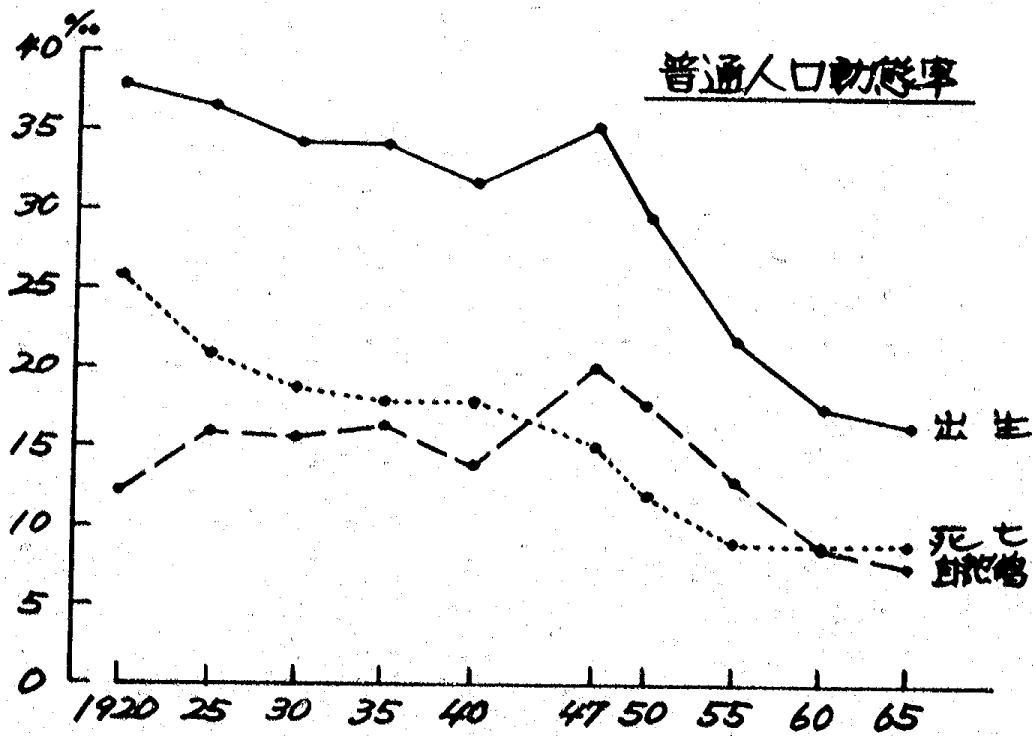
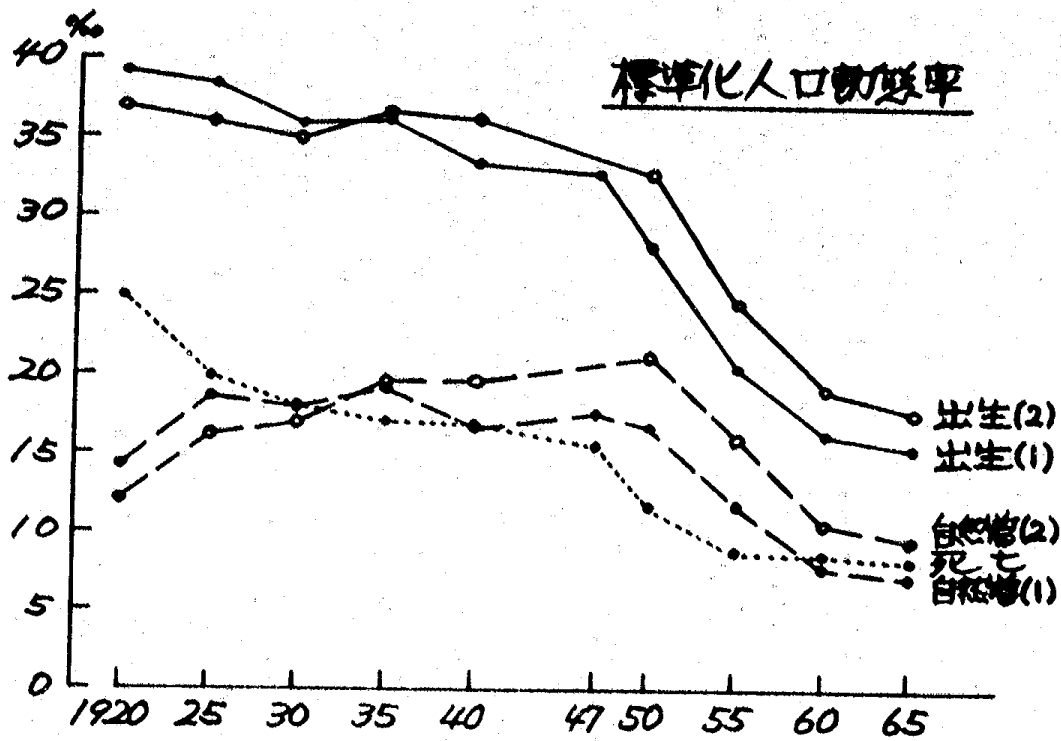
参考図1 全国の標準化および普通人口動態率の推移



参考図2 市部の標準化および普通人口動態率の推移



参考図3 郡部の標準化および普通人口動態率の推移



第2表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化出生率計算表
 (1) 全女子人口による場合—全国・市部・郡部：大正9年～昭和40年

年齢階級 x	標準人口 特殊出生率 $f_p(s, x)$	全 国 All Japan		市 部 Urban (All <i>sai</i>)		郡 部 Rural (All <i>gun</i>)	
		$P_p(i, x)$	$P_p(i, x) \times f_p(s, x)$	$P_p(i, x)$	$P_p(i, x) \times f_p(s, x)$	$P_p(i, x)$	$P_p(i, x) \times f_p(s, x)$
1920 (大正9)年							
15~19	0.03151	2,670,035	84,133	569,901	17,958	2,100,134	66,175
20~24	0.20058	2,292,831	459,896	506,379	101,569	1,786,452	358,327
25~29	0.24907	1,915,944	477,204	402,518	100,255	1,513,426	376,949
30~34	0.21739	1,776,007	386,086	350,694	76,237	1,425,313	309,849
35~39	0.16339	1,702,967	278,248	317,152	51,819	1,385,815	226,428
40~44	0.07176	1,603,510	115,068	280,120	20,101	1,323,390	94,966
45~49	0.00793	1,318,163	10,453	216,613	1,718	1,101,550	8,735
$\Delta P_p(i, x) \times f_p(s, x)$			1,811,088		369,657		1,441,429
人口総数 $P(i)$		5,596,305		1,009,675		4,586,629	
指標出生率 $b_i(i)$		0.032362		0.036611		0.031427	
標準化係数 $c(i)$		0.999691		0.883669		1.029433	
普通出生率 $b(i)$		0.036195		0.028290		0.037935	
標準化出生率 $b_s(i)$		0.036184		0.024999		0.039052	
1925 (大正14)年							
15~19	0.03151	2,896,907	91,282	786,949	24,797	2,109,958	66,485
20~24	0.20058	2,485,728	498,587	668,802	134,148	1,816,926	364,439
25~29	0.24907	2,136,969	532,255	537,943	133,985	1,599,026	398,269
30~34	0.21739	1,795,910	390,413	419,293	91,150	1,376,617	299,263
35~39	0.16339	1,680,839	274,632	371,699	60,732	1,309,140	213,900
40~44	0.07176	1,597,541	114,640	333,349	23,921	1,264,192	90,718
45~49	0.00793	1,515,661	12,019	297,941	2,363	1,217,720	9,657
$\Delta P_p(i, x) \times f_p(s, x)$			1,913,828		471,096		1,442,731
人口総数 $P(i)$		5,973,682		1,289,685		4,683,997	
指標出生率 $b_i(i)$		0.032038		0.036528		0.030801	
標準化係数 $c(i)$		1.009801		0.885677		1.050356	
普通出生率 $b(i)$		0.034921		0.029088		0.036527	
標準化出生率 $b_s(i)$		0.035263		0.025763		0.038366	
1930 (昭和5)年							
15~19	0.03151	3,220,941	101,501	950,310	29,944	2,270,631	71,548
20~24	0.20058	2,716,100	544,784	813,492	163,170	1,902,608	381,625
25~29	0.24907	2,354,877	586,533	663,128	165,165	1,691,749	421,364
30~34	0.21739	2,038,625	443,182	534,443	116,183	1,504,182	326,994
35~39	0.16339	1,727,928	282,329	423,726	69,233	1,304,202	213,094
40~44	0.07176	1,598,544	114,704	370,123	26,660	1,228,421	88,151
45~49	0.00793	1,521,106	12,068	332,995	2,641	1,188,111	9,422
$\Delta P_p(i, x) \times f_p(s, x)$			2,085,101		572,896		1,512,198
人口総数 $P(i)$		6,445,005		1,544,300		4,900,705	
指標出生率 $b_i(i)$		0.032352		0.037094		0.030858	
標準化係数 $c(i)$		1.000000		0.872163		1.048415	
普通出生率 $b(i)$		0.032352		0.026499		0.034197	
標準化出生率 $b_s(i)$		0.032352		0.023111		0.035853	

表末の注参照。

Table 2. Standardized Birth Rates by the Indirect Method,
 (1) Using Age-Specific Fertility per Woman: 1920
 - 1965

年齢階級 α	標準人口 特殊出生率 $f_p(s, \alpha)$	全 国 All Japan		市 部 Urban (All shi)		郡 部 Rural (All gun)	
		$P_r(i, \alpha)$	$\frac{P_r(i, \alpha)}{\sum f_p(s, \alpha)}$	$P_r(i, \alpha)$	$\frac{P_r(i, \alpha)}{\sum f_p(s, \alpha)}$	$P_r(i, \alpha)$	$\frac{P_r(i, \alpha)}{\sum f_p(s, \alpha)}$
1935 (昭和10)年							
15~19	0.03151	3,290,204	103,674	1,301,546	41,012	1,988,658	62,663
20~24	0.20058	3,034,288	608,617	1,236,075	247,932	1,798,213	360,686
25~29	0.24907	2,569,835	640,069	997,084	248,344	1,572,751	391,725
30~34	0.21739	2,253,145	489,811	819,502	178,152	1,433,643	311,660
35~39	0.16339	1,952,400	319,003	659,951	107,829	1,292,449	211,173
40~44	0.07176	1,638,384	117,570	514,422	36,915	1,123,962	80,656
45~49	0.00793	1,521,655	12,067	449,051	3,561	1,072,604	8,506
	$\sum P_r(i, \alpha) \times f_p(s, \alpha)$		2,290,811		863,745		1,427,069
人口総数	$P(i)$	69,254,148		22,666,307		46,587,841	
指標出生率	$\Delta(i)$	0.033078		0.038107		0.030632	
標準化係数	$c(i)$	0.978052		0.848978		1.056150	
普通出生率	$b(i)$	0.031633		0.026534		0.034113	
標準化出生率	$b_s(i)$	0.030939		0.022527		0.036028	
1940 (昭和15)年							
15~19	0.03151	3,614,881	113,905	1,578,511	49,739	2,036,370	64,166
20~24	0.20058	2,971,816	596,067	1,349,047	270,592	1,622,769	325,495
25~29	0.24907	2,748,650	684,606	1,233,446	307,214	1,515,204	377,392
30~34	0.21739	2,386,595	518,822	1,010,606	219,696	1,375,989	299,126
35~39	0.16339	2,121,659	346,658	846,886	138,373	1,274,773	208,285
40~44	0.07176	1,823,462	130,852	678,909	48,719	1,144,553	82,133
45~49	0.00793	1,531,715	12,146	534,886	4,242	996,829	7,905
	$\sum P_r(i, \alpha) \times f_p(s, \alpha)$		2,403,076		1,038,575		1,364,502
人口総数	$P(i)$	71,236,546		26,700,657		44,535,889	
指標出生率	$\Delta(i)$	0.033734		0.038897		0.030638	
標準化係数	$c(i)$	0.959032		0.831735		1.055944	
普通出生率	$b(i)$	0.029482		0.026014		0.031560	
標準化出生率	$b_s(i)$	0.028274		0.021637		0.033326	
1947 (昭和22)年							
15~19	0.03151	4,119,285	129,799	1,381,364	43,527	2,737,921	86,272
20~24	0.20058	3,699,448	742,035	1,297,792	260,311	2,401,656	481,724
25~29	0.24907	3,080,721	767,315	1,123,569	279,847	1,957,152	487,468
30~34	0.21739	2,766,912	601,499	995,394	216,389	1,771,518	385,110
35~39	0.16339	2,552,224	417,008	911,511	148,932	1,640,713	268,076
40~44	0.07176	2,081,390	149,361	744,623	53,434	1,336,767	95,926
45~49	0.00793	1,894,634	15,024	660,673	5,239	1,233,961	9,785
	$\sum P_r(i, \alpha) \times f_p(s, \alpha)$		2,822,041		1,007,679		1,814,361
人口総数	$P(i)$	78,101,473		25,857,739		52,243,734	
指標出生率	$\Delta(i)$	0.036133		0.038970		0.034729	
標準化係数	$c(i)$	0.895359		0.830177		0.931556	
普通出生率	$b(i)$	0.034299		0.032574		0.035152	
標準化出生率	$b_s(i)$	0.030710		0.027042		0.032746	

表末の注参照。

第2表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化出生率計算表
 (1) 全女子人口による場合(つづき)

年齢階級 x	標準人口 特殊出生率 $f_r(s,x)$	全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
		$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\sum f_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\sum f_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\sum f_r(s,x)}$
1950(昭和25)年							
15~19	0.03151	4,250,341	133,928	1,617,452	50,966	2,632,889	82,962
20~24	0.20058	3,889,946	780,245	1,565,967	314,102	2,323,979	466,144
25~29	0.24907	3,363,412	837,725	1,405,828	350,150	1,957,584	487,575
30~34	0.21739	2,842,157	617,857	1,171,773	254,732	1,670,384	363,125
35~39	0.16339	2,672,119	436,598	1,075,694	175,758	1,596,425	260,840
40~44	0.07176	2,284,154	163,911	903,489	64,834	1,380,665	99,077
45~49	0.00793	1,985,813	15,747	771,937	6,121	1,213,876	9,626
$\sum P_r(i,x)$	$\sum f_r(s,x)$		2,986,011		1,216,663		1,769,349
人口総数	$P(i)$		83,199,637		31,203,191		51,996,446
指標出生率	$b(i)$		0.035890		0.038992		0.034028
標準化係数	$c(i)$		0.901421		0.829709		0.950746
普通出生率	$b(i)$		0.028095		0.025587		0.029600
標準化出生率	$b_s(i)$		0.025325		0.021230		0.028142
1955(昭和30)年							
15~19	0.03151	4,284,189	134,995	2,505,047	78,934	1,779,142	56,061
20~24	0.20058	4,206,867	843,813	2,531,441	507,756	1,675,426	336,057
25~29	0.24907	3,828,981	953,684	2,303,807	573,809	1,525,174	379,875
30~34	0.21739	3,319,724	721,675	1,973,266	428,968	1,346,458	292,707
35~39	0.16339	2,795,654	456,782	1,638,946	267,787	1,156,708	188,995
40~44	0.07176	2,620,604	188,055	1,512,118	108,510	1,108,486	79,545
45~49	0.00793	2,231,679	17,697	1,267,896	10,054	963,783	7,643
$\sum P_r(i,x)$	$\sum f_r(s,x)$		3,316,701		1,975,818		1,340,883
人口総数	$P(i)$		89,275,529		50,288,026		38,987,503
指標出生率	$b(i)$		0.037151		0.039290		0.034393
標準化係数	$c(i)$		0.870824		0.823416		0.940657
普通出生率	$b(i)$		0.019386		0.017583		0.021712
標準化出生率	$b_s(i)$		0.016882		0.014478		0.020424
1960(昭和35)年							
15~19	0.03151	4,630,775	145,916	3,181,585	100,252	1,449,190	45,664
20~24	0.20058	4,193,184	841,069	2,894,415	580,562	1,298,769	260,507
25~29	0.24907	4,114,704	1,024,849	2,804,169	698,434	1,310,535	326,415
30~34	0.21739	3,770,907	819,757	2,482,364	539,641	1,288,543	280,116
35~39	0.16339	3,274,822	535,073	2,116,877	345,877	1,157,945	189,197
40~44	0.07176	2,744,786	196,966	1,751,055	125,656	993,731	71,310
45~49	0.00793	2,559,755	20,299	1,613,477	12,795	946,278	7,504
$\sum P_r(i,x)$	$\sum f_r(s,x)$		3,583,929		2,403,217		1,180,713
人口総数	$P(i)$		93,418,501		59,333,330		34,085,171
指標出生率	$b(i)$		0.038364		0.040504		0.034640
標準化係数	$c(i)$		0.843291		0.798736		0.933949
普通出生率	$b(i)$		0.017192		0.017086		0.017377
標準化出生率	$b_s(i)$		0.014498		0.013647		0.016229

表末の注参照。

Table 2. Standardized Birth Rates by the Indirect Method,
(1) Using Age-Specific Fertility per Woman
(continued)

年齢階級 x	標準人口 特殊出生率 $f_p(s, x)$	全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
		$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\sum f_p(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\sum f_p(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\sum f_p(s, x)}$
1965 (昭和40)年							
15~19	0.03151	5,373,547	169,320	3,804,597	119,883	1,568,950	49,438
20~24	0.20058	4,572,392	917,130	3,462,178	694,444	1,110,214	222,687
25~29	0.24907	4,206,801	1,047,788	3,113,912	775,582	1,092,889	272,206
30~34	0.21739	4,110,076	893,489	2,920,295	634,843	1,189,781	258,646
35~39	0.16339	3,751,030	612,881	2,565,452	419,169	1,185,578	193,712
40~44	0.07176	3,231,736	231,909	2,165,318	155,383	1,066,418	76,526
45~49	0.00793	2,697,217	21,389	1,784,455	14,151	912,762	7,238
	$\sum P_r(i, x) \times f_p(s, x)$		3,893,906		2,813,455		1,080,453
人口総数	$P(i)$		98,274,961		66,918,621		31,356,340
指標出生率	$b_i(i)$		0.039623		0.042043		0.034457
標準化係数	$c(i)$		0.816495		0.769498		0.938909
普通出生率	$b(i)$		0.018557		0.019620		0.016288
標準化出生率	$b_s(i)$		0.015152		0.015098		0.015293

〔注〕

任意標準人口標準化法の間接法による。標準人口は昭和5(1930)年全園人口。

標準出生率 $b(s) = 0.032352$ (昭5 $b(i)$)

$$b_i(i) = \sum P_r(i, x) \cdot f_p(s, x) / P(i) \quad (0.039623)$$

$$c(i) = b(s) / b_i(i)$$

$$b(i) = B(i) / P(i)$$

$$b_s(i) = b(i) \cdot c(i)$$

率算出の基礎数値である年齢別人口および出生数において、年齢不詳のある場合は、それぞれの既知の年齢別数値をウェイトとして案分し、各年齢に含めてある。

なお、戦前の数値には沖縄県を含む。ただし、昭和15年は市部郡部別の年齢別人口が沖縄を除いた結果しかわかっていないので、それによっている。また、15年人口は全人口であるが日本人のみである。

第3表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化出生率計算表

(2)有配偶女子人口による場合—全国・市部・郡部：大正9年～昭和40年

年齢階級 x	標準人口 特殊出生率 $f_{pn}(s, x)$	全 国 All Japan		市 部 Urban (All shi)		郡 部 Rural (All gun)	
		$P_{pn}(i, x)$	$P_{pn}(i, x) \times$ $f_{pn}(s, x)$	$P_{pn}(i, x)$	$P_{pn}(i, x) \times$ $f_{pn}(s, x)$	$P_{pn}(i, x)$	$P_{pn}(i, x) \times$ $f_{pn}(s, x)$
1920 (大正9)年							
15~19	0.30602	4,428.12	1,355,509	7,370.1	2,255.4	3,691.11	1,129,955
20~24	0.33390	1,488.497	497,009	29,140.8	9,730.1	1,197,089	399,708
25~29	0.28444	1,642.525	467,200	32,451.1	9,230.4	1,318,014	374,896
30~34	0.23962	1,588.522	380,642	30,037.2	7,197.5	1,288,150	308,667
35~39	0.18312	1,500.449	274,762	26,803.1	4,908.2	1,232,418	225,680
40~44	0.08401	1,355.711	113,893	22,454.2	1,886.4	1,131,169	95,030
45~49	0.01001	1,042.041	10,431	15,782.9	1,580	884,212	8,851
$\Sigma P_{pn}(i, x) \times f_{pn}(s, x)$			1,879,446		353,660		1,525,787
人口総数	$P(i)$		59,630,53		10,096,758		45,866,295
指標出生率	$b_i(i)$		0.033584		0.035027		0.033266
標準化係数	$c(i)$		0.963316		0.923630		0.972524
普通出生率	$b(i)$		0.036195		0.028290		0.037935
標準化出生率	$b_s(i)$		0.034867		0.026129		0.036893
1925 (大正14)年							
15~19	0.30602	3,835.34	1,173,69	7,850.9	2,402.5	3,050.25	933,44
20~24	0.33390	1,667.151	556,662	40,513.1	13,527.3	1,262,020	421,388
25~29	0.28444	1,872.364	532,575	44,945.4	12,784.3	1,422,910	404,733
30~34	0.23962	1,623.365	388,991	36,645.5	8,781.0	1,256,910	301,181
35~39	0.18312	1,494.736	273,716	31,943.8	5,849.5	1,175,298	215,221
40~44	0.08401	1,356.596	113,968	27,090.7	2,275.9	1,085,689	91,209
45~49	0.01001	1,196.833	11,980	21,971.0	2,199	977,123	9,781
$\Sigma P_{pn}(i, x) \times b_i(s, x)$			1,995,261		458,404		1,536,857
人口総数	$P(i)$		59,736,822		12,896,850		46,839,972
指標出生率	$b_i(i)$		0.033401		0.035544		0.032811
標準化係数	$c(i)$		0.968594		0.910196		0.986011
普通出生率	$b(i)$		0.034921		0.029088		0.036527
標準化出生率	$b_s(i)$		0.033824		0.026476		0.036016
1930 (昭和5)年							
15~19	0.30602	3,316.86	1,015,01	7,452.1	2,280.5	2,571.65	78,698
20~24	0.33390	1,631.559	544,784	43,417.4	14,497.1	1,197,385	399,807
25~29	0.28444	2,062.079	586,533	55,516.5	15,791.1	1,506,914	428,627
30~34	0.23962	1,849.491	443,182	46,985.4	11,258.6	1,379,637	330,589
35~39	0.18312	1,541.753	282,329	36,617.1	6,705.3	1,175,582	215,273
40~44	0.08401	1,365.391	114,704	30,317.5	2,547.0	1,062,216	89,237
45~49	0.01001	1,205.669	12,068	24,804.6	2,483	957,623	9,586
$\Sigma P_{pn}(i, x) \times f_{pn}(s, x)$			2,085,101		533,279		1,551,817
人口総数	$P(i)$		64,450,005		15,444,300		49,005,705
指標出生率	$b_i(i)$		0.032352		0.034529		0.031666
標準化係数	$c(i)$		1.000000		0.936952		1.021664
普通出生率	$b(i)$		0.032352		0.026499		0.034197
標準化出生率	$b_s(i)$		0.032352		0.024828		0.034938

表末の注参照。

Table 3. Standardized Birth Rates by the Indirect Method,
 (2) Using Age-Specific Fertility per Married Woman:
 1920 - 1965

年齢階級 α	標準人口 特殊出生率 $f_{\alpha}(s, \alpha)$	全 國 All Japan		市 郡 Urban		郡 部 Rural	
		$P_{\alpha}(i, \alpha)$	$\frac{P_{\alpha}(i, \alpha)}{\sum f_{\alpha}(s, \alpha)}$	$P_{\alpha}(i, \alpha)$	$\frac{P_{\alpha}(i, \alpha)}{\sum f_{\alpha}(s, \alpha)}$	$P_{\alpha}(i, \alpha)$	$\frac{P_{\alpha}(i, \alpha)}{\sum f_{\alpha}(s, \alpha)}$
1935 (昭和10)年							
15~19	0.30602	238,832	73,087	72,980	22,333	165,852	50,754
20~24	0.33390	1,618,179	540,310	581,736	194,242	1,036,443	346,068
25~29	0.28444	2,184,395	621,329	811,681	230,875	1,372,714	390,455
30~34	0.23962	2,031,040	486,678	719,581	172,426	1,311,459	314,252
35~39	0.18312	1,741,422	318,889	573,932	105,098	1,167,490	213,791
40~44	0.08401	1,401,536	117,743	425,181	35,719	976,355	82,024
45~49	0.01001	1,212,227	12,134	33,840	3,387	873,825	8,747
$\sum P_{\alpha}(i, \alpha) \times f_{\alpha}(s, \alpha)$			2,170,170		764,080		1,406,091
人口総数 $P(i)$		69,254,148		22,666,307		46,587,841	
指標出生率 $b_i(i)$		0.031336		0.033710		0.030182	
標準化係数 $c(i)$		1.032423		0.959715		1.071897	
普通出生率 $b(i)$		0.031633		0.026534		0.034113	
標準化出生率 $b_s(i)$		0.032659		0.025465		0.036566	
1940 (昭和15)年							
15~19	0.30602	152,347	46,621	54,690	16,736	97,657	29,885
20~24	0.33390	1,342,722	448,335	566,836	189,267	775,886	259,068
25~29	0.28444	2,276,551	647,542	989,546	281,466	1,287,005	366,076
30~34	0.23962	2,119,945	507,981	876,298	209,979	1,243,647	298,003
35~39	0.18312	1,878,353	343,964	731,767	134,001	1,146,586	209,963
40~44	0.08401	1,559,120	130,982	562,792	47,280	996,328	83,702
45~49	0.01001	1,223,518	22,477	407,357	4,078	816,161	8,170
$\sum P_{\alpha}(i, \alpha) \times f_{\alpha}(s, \alpha)$			2,137,672		882,807		1,254,867
人口総数 $P(i)$		71,236,546		26,700,657		44,535,889	
指標出生率 $b_i(i)$		0.030008		0.033063		0.028177	
標準化係数 $c(i)$		1.078113		0.978496		1.148170	
普通出生率 $b(i)$		0.029482		0.026014		0.031560	
標準化出生率 $b_s(i)$		0.031785		0.025455		0.036236	
1950 (昭和25)年							
15~19	0.30602	138,181	42,286	43,688	13,369	94,493	28,917
20~24	0.33390	1,660,811	554,545	604,775	201,934	1,056,036	352,610
25~29	0.28444	2,660,752	756,824	1,067,528	303,648	1,593,224	453,177
30~34	0.23962	2,368,345	567,503	960,628	230,186	1,407,717	337,317
35~39	0.18312	2,208,430	404,408	881,863	161,487	1,326,567	242,921
40~44	0.08401	1,874,336	157,463	727,179	61,090	1,147,157	96,373
45~49	0.01001	1,558,981	15,605	58,457	5,850	974,524	9,755
$\sum P_{\alpha}(i, \alpha) \times f_{\alpha}(s, \alpha)$			2,498,634		977,564		1,521,070
人口総数 $P(i)$		83,199,637		31,203,191		51,996,446	
指標出生率 $b_i(i)$		0.030032		0.031329		0.029253	
標準化係数 $c(i)$		1.077251		1.032653		1.105938	
普通出生率 $b(i)$		0.028095		0.025587		0.029600	
標準化出生率 $b_s(i)$		0.030265		0.026422		0.032736	

表末の注参照。

第3表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化出生率計算表
 (2)有配偶女子人口による場合(つづき)

年齢階級 x	標準人口 特殊出生率	全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
	$f_m(s, x)$	$P_m(i, x)$	$\frac{P_m(i, x)}{\times f_m(s, x)}$	$P_m(i, x)$	$\frac{P_m(i, x)}{\times f_m(s, x)}$	$P_m(i, x)$	$\frac{P_m(i, x)}{\times f_m(s, x)}$
1955(昭和30)年							
15~19	0.30602	72780	22272	35556	10881	37224	11391
20~24	0.33390	1,370,298	457,543	746,898	249,389	623,400	208,153
25~29	0.28444	2,917,144	829,752	1,681,735	478,353	1,235,409	351,400
30~34	0.23962	2,829,895	678,099	1,641,595	393,359	1,188,300	284,740
35~39	0.18312	2,329,483	426,575	1,350,327	247,272	979,156	179,303
40~44	0.08401	2,105,777	176,906	1,207,059	101,405	898,718	75,501
45~49	0.01001	174,582	17,476	977,152	9,781	768,670	7,694
$\Sigma P_m(i, x) \times f_m(s, x)$			2,608,623		1,490,440		1,118,182
人口総数	$P(i)$		89,275,529		50,288,026		38,987,503
指標出生率	$h(i)$		0.029220		0.029638		0.028681
標準化係数	$c(i)$		1.107187		1.091572		1.127994
普通出生率	$b(i)$		0.019386		0.017583		0.021712
標準化出生率	$b_s(i)$		0.021464		0.019193		0.024491
1960(昭和35)年							
15~19	0.30602	61326	18767	39356	12044	21970	6723
20~24	0.33390	1,308,364	436,863	848,307	283,250	460,057	153,613
25~29	0.28444	3,141,937	893,693	2,075,791	590,438	1,066,146	303,255
30~34	0.23962	3,244,224	777,381	2,083,510	499,251	1,160,714	278,130
35~39	0.18312	2,812,734	515,068	1,781,489	326,226	1,031,245	188,842
40~44	0.08401	2,237,917	188,007	1,411,251	118,559	826,666	69,448
45~49	0.01001	1,968,982	19,710	1,229,120	12,303	739,862	7,406
$\Sigma P_m(i, x) \times f_m(s, x)$			2,849,489		1,842,071		1,007,417
人口総数	$P(i)$		93,418,501		59,333,330		34,085,171
指標出生率	$h(i)$		0.030502		0.031046		0.029556
標準化係数	$c(i)$		1.060652		1.042067		1.094600
普通出生率	$b(i)$		0.017192		0.017086		0.017377
標準化出生率	$b_s(i)$		0.018235		0.017805		0.019021
1965(昭和40)年							
15~19	0.30602	69,876	21,383	51,651	15,806	18,225	5,577
20~24	0.33390	1,437,909	480,118	1,059,201	353,667	378,708	126,451
25~29	0.28444	3,354,199	954,068	2,437,430	693,303	916,769	260,766
30~34	0.23962	3,620,217	867,476	2,530,039	606,248	1,090,178	261,228
35~39	0.18312	3,283,863	601,341	2,203,705	403,542	1,080,158	197,799
40~44	0.08401	2,743,531	230,484	1,805,185	151,654	938,346	78,830
45~49	0.01001	2,132,454	21,346	1,394,363	13,958	738,091	7,388
$\Sigma P_m(i, x) \times f_m(s, x)$			3,176,216		2,238,178		938,039
人口総数	$P(i)$		98,274,961		66,918,621		31,356,340
指標出生率	$h(i)$		0.032320		0.033446		0.029915
標準化係数	$c(i)$		1.000990		0.967291		1.081464
普通出生率	$b(i)$		0.018557		0.019620		0.016288
標準化出生率	$b_s(i)$		0.018575		0.018978		0.017615

Table 3. Standardized Birth Rates by the Indirect Method,
(2) Using Age-Specific Fertility per Married Woman
(continued)

(注)

任意標準人口標準化法の間接法による。標準人口は昭和5(1930)年全国人口。

標準出生率 $b(s) = 0.032352$ (昭5 $b(i)$)

$$b_i(i) = \sum P_m(i, x) \cdot f_{r_m}(s, x) / P(i)$$

$$c(i) = b(s) / b_i(i)$$

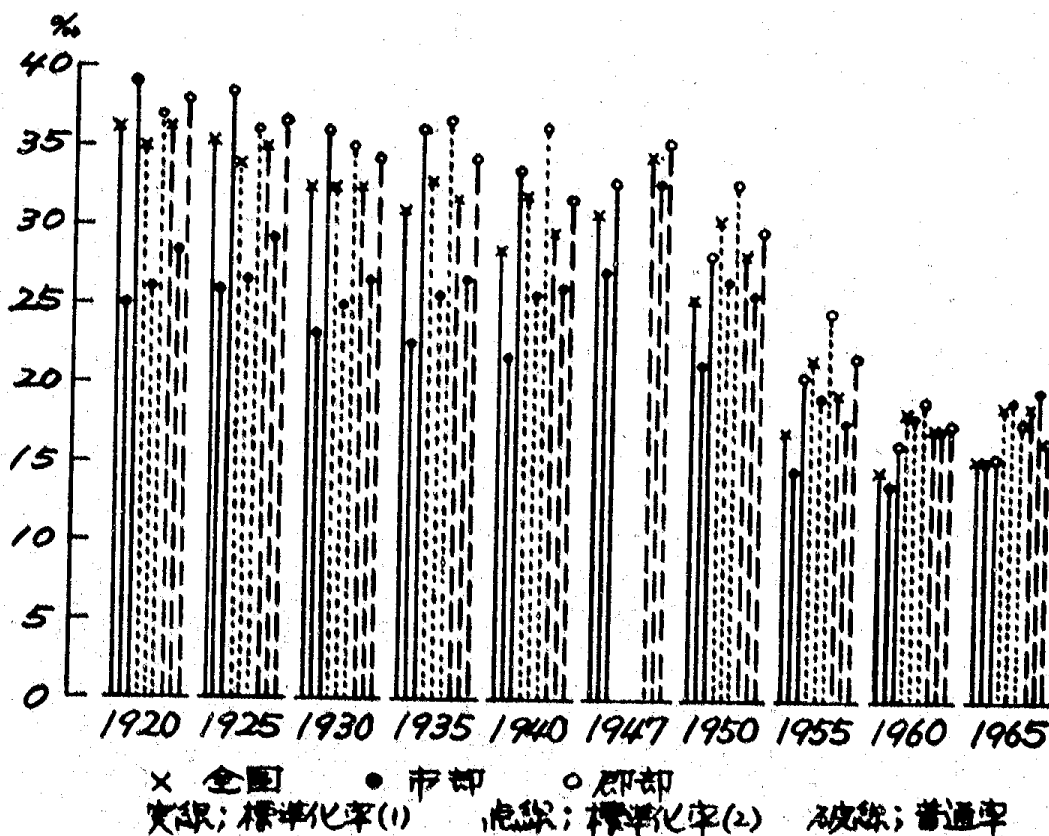
$$b(i) = B(i) / P(i)$$

$$b_s(i) = b(i) \cdot c(i)$$

率算出の基礎数値である年齢別人口および出生数において、年齢不詳のある場合は、それぞれの既知の年齢別数値をウエートとして案分し、各年齢に含めてある。また、本表の場合の女子人口は有配偶者のみによつてゐるが、これについても配偶関係不詳のあるときは、既知の配偶関係割合に応じて案分したものをを用いる。

なお、戦前の数値には沖縄県を含んでいる。ただし、昭和15年は市部郡部別の年齢別人口が沖縄を除いた結果しかわかつていないので、それによつてゐる。そして、15年人口は全人口であるが、日本人のみである。昭和22年は配偶関係別人口がないので、本表における標準化出生率は算定できなかつた。

参考図4 標準化および普通出生率の全国・市部・郡部別比較



第4表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化死亡率計算表
 全国・市部・郡部：大正9年～昭和40年

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1920 (大正9)年					
		全 国 All Japan		市 部 Urban (All shi)		郡 部 Rural (All gun)	
		$P_u(i, x)$	$P_u(i, x) \times m_u(s, x)$	$P_u(i, x)$	$P_u(i, x) \times m_u(s, x)$	$P_r(i, x)$	$P_r(i, x) \times m_r(s, x)$
x	$m_u(s, x)$						
0~4	0.04705	3,752,627	176,561	558,935	26,298	3,193,692	150,263
5~9	0.00414	3,467,156	14,354	515,224	2,133	2,951,932	12,221
10~14	0.00272	3,089,225	8,403	537,816	1,463	2,551,409	6,940
15~19	0.00731	2,749,022	20,095	687,035	5,022	2,061,987	15,073
20~24	0.00916	2,316,479	21,219	627,658	5,749	1,688,821	15,470
25~29	0.00782	2,008,005	15,703	476,260	3,724	1,531,745	11,978
30~34	0.00705	1,833,443	12,926	404,226	2,850	1,429,217	10,076
35~39	0.00789	1,707,771	13,474	350,258	2,764	1,357,513	10,711
40~44	0.01018	1,640,254	16,698	309,468	3,150	1,330,786	13,547
45~49	0.01429	1,340,404	19,154	235,224	3,361	1,105,180	15,793
50~54	0.02004	1,122,240	22,490	184,813	3,704	937,427	18,786
55~59	0.02878	912,085	26,250	134,307	3,865	777,778	22,384
60~64	0.04337	803,033	34,828	106,325	4,611	696,708	30,216
65~69	0.06192	614,479	38,049	71,046	4,399	543,433	33,649
70~74	0.09642	399,540	38,524	38,430	3,705	361,110	34,818
75~79	0.13833	198,253	27,424	16,102	2,227	182,151	25,197
80~	0.22338	90,169	20,142	6,146	1,373	84,023	18,769
$\Sigma P_u(i, x) \times m_u(s, x)$			526,294		80,398		445,891
x	$m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$P_r(i, x) \times m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$P_r(i, x) \times m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$P_r(i, x) \times m_r(s, x)$
0~4	0.04260	3,705,088	157,837	551,025	23,474	3,154,063	134,363
5~9	0.00437	3,389,764	14,813	500,634	2,188	2,889,130	12,625
10~14	0.00375	3,012,342	11,296	499,637	1,874	2,512,705	9,423
15~19	0.00865	2,670,035	23,096	569,901	4,930	2,100,134	18,166
20~24	0.01008	2,292,831	23,112	506,379	5,104	1,786,452	18,007
25~29	0.00892	1,915,944	17,090	402,518	3,590	1,513,426	13,500
30~34	0.00856	1,776,007	15,203	350,694	3,002	1,425,313	12,201
35~39	0.00915	1,702,967	15,582	317,152	2,902	1,385,815	12,680
40~44	0.00971	1,603,510	15,570	280,120	2,720	1,323,390	12,850
45~49	0.01075	1,318,163	14,170	216,613	2,329	1,101,550	11,842
50~54	0.01370	1,112,522	15,242	178,993	2,452	933,529	12,789
55~59	0.01873	928,008	17,382	137,283	2,571	790,725	14,810
60~64	0.02811	852,772	23,971	120,526	3,388	732,246	20,583
65~69	0.04237	698,058	29,577	94,536	4,005	603,522	25,571
70~74	0.06957	497,078	34,582	62,090	4,320	434,988	30,262
75~79	0.10646	283,759	30,209	32,542	3,464	251,217	26,745
80~	0.18454	160,020	29,530	16,842	3,108	143,178	26,422
$\Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			488,262		75,421		412,839
$\Sigma P_u(i, x) \times m_u(s, x) + \Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			1,014,556		155,819		858,730
人口総数	$P(i)$		55,963,053		10,096,758		45,866,295
指標死亡率	$d(i)$		0.018129		0.015433		0.018722
標準化係数	$c(i)$		1.002096		1.177153		0.970356
普通死亡率	$d(i)$		0.025411		0.024070		0.025707
標準化死亡率	$d_s(i)$		0.025464		0.028334		0.024945

表末の注参照。

Table 4. Standardized Death Rates by the Indirect Methods:
1920 - 1965

		1925 (大正14)年					
年齢階級	標準人口 特殊死亡率	全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_u(s, x)$	$P_u(i, x)$	$\frac{P_u(i, x)}{\times m_u(s, x)}$	$P_u(i, x)$	$\frac{P_u(i, x)}{\times m_u(s, x)}$	$P_u(i, x)$	$\frac{P_u(i, x)}{\times m_u(s, x)}$
0~4	0.04705	4,160,479	195,751	779,181	56,660	3,381,298	159,090
5~9	0.00414	3,491,171	14,453	599,186	2,481	2,891,985	11,973
10~14	0.00272	3,410,991	9,278	683,434	1,859	2,727,557	7,419
15~19	0.00731	2,988,370	21,845	895,113	6,543	2,093,257	15,302
20~24	0.00916	2,574,799	23,585	799,271	7,321	1,775,528	16,264
25~29	0.00782	2,256,502	17,646	629,919	4,926	1,626,583	12,720
30~34	0.00705	1,920,177	13,537	495,529	3,493	1,424,648	10,044
35~39	0.00789	1,768,538	13,954	428,054	3,377	1,340,484	10,576
40~44	0.01018	1,624,224	16,535	369,030	3,757	1,255,194	12,778
45~49	0.01429	1,539,488	21,999	321,244	4,591	1,218,244	17,409
50~54	0.02004	1,223,831	24,526	235,001	4,709	988,830	19,816
55~59	0.02878	981,235	28,240	173,236	4,986	807,999	23,254
60~64	0.04337	754,000	32,701	117,258	5,085	636,742	27,616
65~69	0.06192	601,475	37,243	82,342	5,099	519,133	32,145
70~74	0.09642	403,555	38,911	48,309	4,658	355,246	34,253
75~79	0.13833	213,632	29,552	21,278	2,943	192,354	26,608
80≤	0.22338	100,642	22,481	8,328	1,860	92,314	20,621
$\Sigma P_u(i, x) \times m_u(s, x)$			562,237		104,348		457,888
x	$m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$
0~4	0.04260	4,104,104	174,835	763,208	32,513	3,340,896	142,322
5~9	0.00437	3,433,261	15,003	587,532	2,568	2,845,729	12,436
10~14	0.00375	3,324,039	12,465	662,061	2,483	2,661,978	9,982
15~19	0.00865	2,896,907	25,058	786,949	6,807	2,109,958	18,251
20~24	0.01008	2,485,728	35,056	668,802	6,742	1,816,026	18,306
25~29	0.00892	2,136,969	19,062	537,943	4,798	1,599,026	14,263
30~34	0.00856	1,795,910	15,373	419,293	3,589	1,376,617	11,784
35~39	0.00915	1,680,839	15,380	371,699	3,401	1,309,140	11,979
40~44	0.00971	1,597,541	15,512	333,349	3,237	1,264,192	12,275
45~49	0.01075	1,515,661	16,293	297,941	3,203	1,217,720	13,090
50~54	0.01370	1,227,072	16,811	224,972	3,082	1,002,100	13,729
55~59	0.01873	1,009,582	18,909	180,221	3,376	829,361	15,534
60~64	0.02811	814,341	22,891	131,787	3,705	682,554	19,187
65~69	0.04237	692,865	29,357	105,806	4,483	587,059	24,874
70~74	0.06957	515,625	35,872	75,202	5,232	440,423	30,640
75~79	0.10646	309,382	32,937	41,667	4,436	267,715	28,501
80≤	0.18454	183,887	33,935	22,705	4,190	161,182	29,745
$\Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			534,749		97,845		426,898
$\frac{\Sigma P_u(i, x) \times m_u(s, x) + \Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)}{\Sigma P(i, x) \times m(s, x)}$			1,096,986		202,193		884,786
人口総数	$P(i)$		59,736,822		12,896,850		4,683,972
指標死亡率	$d(i)$		0.018364		0.015678		0.018890
標準化係数	$c(i)$		0.989272		1.158757		0.961726
普通死亡率	$d(i)$		0.020267		0.018846		0.020659
標準化死亡率	$d_s(i)$		0.020050		0.021838		0.019868

表末の注参照。

第4表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化死亡率計算表
(つづき)

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1930(昭和5)年					
		全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_v(s,x)$	$P_v(i,x)$	$\frac{P_v(i,x)}{\times m_v(s,x)}$	$P_u(i,x)$	$\frac{P_u(i,x)}{\times m_u(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$
0~4	0.04705	4,543,442	213,778	968,812	45,583	3,574,630	168,186
5~9	0.00414	3,914,786	16,196	776,839	3,216	3,137,947	12,921
10~14	0.00272	3,436,560	9,341	727,598	1,979	2,708,962	7,368
15~19	0.00731	3,318,663	24,267	1,058,818	7,740	2,259,845	16,519
20~24	0.00916	2,815,406	25,782	952,942	8,729	1,862,464	17,060
25~29	0.00782	2,480,757	19,392	758,480	5,931	1,722,277	13,468
30~34	0.00705	2,175,040	15,332	620,053	4,371	1,554,987	10,963
35~39	0.00789	1,856,905	14,652	493,173	3,891	1,363,732	10,760
40~44	0.01018	1,687,934	17,189	423,026	4,306	1,264,008	12,868
45~49	0.01429	1,525,157	21,790	357,052	5,102	1,168,105	16,692
50~54	0.02004	1,410,576	28,272	301,245	6,037	1,109,331	22,231
55~59	0.02878	1,085,866	31,249	212,670	6,121	873,196	25,131
60~64	0.04337	820,315	35,576	146,804	6,367	673,511	29,210
65~69	0.06192	577,193	35,740	90,358	5,595	486,835	30,145
70~74	0.09642	403,984	38,954	55,455	5,347	348,529	33,605
75~79	0.13833	222,451	30,771	26,806	3,708	195,645	27,064
80≤	0.22338	115,120	25,715	11,117	2,483	104,003	23,232
$\Sigma P_v(i,x) \times m_v(s,x)$			603,996		126,506		477,493
x	$m_r(s,x)$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$
0~4	0.04260	4,467,693	190,327	948,490	40,406	3,519,203	149,918
5~9	0.00437	3,852,299	16,828	761,107	3,326	3,091,192	13,509
10~14	0.00375	3,364,485	12,621	700,911	2,628	2,663,574	9,988
15~19	0.00865	3,220,941	27,868	950,310	8,220	2,270,631	19,641
20~24	0.01008	2,716,100	27,368	813,492	8,200	1,902,608	19,178
25~29	0.00892	2,354,877	20,998	663,128	5,915	1,691,749	15,090
30~34	0.00856	2,038,625	17,456	534,443	4,575	1,504,182	12,876
35~39	0.00915	1,727,928	15,812	423,726	3,877	1,304,202	11,933
40~44	0.00971	1,598,544	15,514	370,123	3,594	1,228,421	11,928
45~49	0.01075	1,521,106	16,347	332,995	3,580	1,188,111	12,772
50~54	0.01370	1,420,118	19,449	293,699	4,024	1,126,419	15,432
55~59	0.01873	1,130,237	21,168	220,425	4,129	909,812	17,041
60~64	0.02811	901,770	25,349	170,664	4,797	731,106	20,551
65~69	0.04237	678,637	28,752	115,829	4,908	562,808	23,846
70~74	0.06957	522,617	36,358	83,592	5,815	439,025	30,543
75~79	0.10646	329,267	35,053	50,028	5,326	279,239	29,728
80≤	0.18454	214,606	39,603	30,090	5,553	184,516	34,051
$\Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)$			566,871		118,873		448,025
$\frac{\Sigma P_v(i,x) \times m_v(s,x) + \Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)}{\Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)}$			1,170,867		245,379		925,518
人口総数	$P(i)$	64,450,005		15,444,300		49,005,705	
指標死亡率	$d_i(i)$	0.018167		0.015888		0.018886	
標準化係数	$c(i)$	1.000000		1.143442		0.961929	
普通死亡率	$d(i)$	0.018167		0.016457		0.018706	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.018167		0.018818		0.017994	

表末の注参照。

Table 4. Standardized Death Rates by the Indirect Method
(continued)

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1935 (昭和10)年					
		全 國 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
		$P_u(i, x)$	$P_u(i, x) \times m_u(s, x)$	$P_u(i, x)$	$P_u(i, x) \times m_u(s, x)$	$P_u(i, x)$	$P_u(i, x) \times m_u(s, x)$
x	$m_u(s, x)$						
0~4	0.04705	4,714,001	221,794	1,403,902	6,6054	3,310,099	155,740
5~9	0.00414	4,303,263	17,916	1,210,551	5,012	3,092,712	12,804
10~14	0.00272	3,876,774	10,545	1,132,871	3,081	2,743,903	7,463
15~19	0.00731	5,550,713	24,494	1,409,571	10,304	1,941,142	14,190
20~24	0.00916	3,036,783	27,817	1,360,878	12,466	1,875,905	15,351
25~29	0.00782	2,670,248	20,881	1,106,212	8,651	1,564,036	12,231
30~34	0.00705	2,379,492	16,775	924,695	6,519	1,454,797	10,256
35~39	0.00789	2,093,446	16,517	765,016	6,036	1,328,430	10,481
40~44	0.01018	1,767,627	17,994	600,874	6,117	1,166,753	11,878
45~49	0.01429	1,591,179	22,738	504,319	7,207	1,086,860	15,531
50~54	0.02004	1,404,376	28,144	407,311	8,163	997,065	19,981
55~59	0.02878	1,255,092	36,122	327,514	9,426	927,578	26,696
60~64	0.04337	916,820	39,762	217,003	9,411	699,817	30,351
65~69	0.06192	630,008	39,010	135,796	8,408	494,212	30,602
70~74	0.09642	394,223	38,011	74,942	7,226	319,281	30,785
75~79	0.13833	224,829	31,101	37,374	5,170	187,455	25,931
80~	0.22338	125,259	27,980	17,297	3,864	107,962	24,117
$\sum P_u(i, x) \times m_u(s, x)$			637,501		183,115		454,388
x	$m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$P_r(i, x) \times m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$P_r(i, x) \times m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$P_r(i, x) \times m_r(s, x)$
0~4	0.04260	4614,500	196,578	1,367,831	58,270	3,246,669	138,308
5~9	0.00437	4,228,156	18,477	1,185,095	5,179	3,043,061	13,298
10~14	0.00375	3,808,473	14,282	1,106,883	4,151	2,701,590	10,131
15~19	0.00865	5,290,204	28,460	1,301,546	11,258	1,988,658	17,202
20~24	0.01008	3,034,288	30,586	1,236,075	12,460	1,798,213	18,126
25~29	0.00892	2,569,835	22,923	997,084	8,894	1,572,751	14,029
30~34	0.00856	2,253,145	19,287	819,502	7,015	1,443,643	12,272
35~39	0.00915	1,952,400	17,864	659,951	6,039	1,292,449	11,826
40~44	0.00971	1,638,384	15,909	514,422	4,995	1,123,962	10,914
45~49	0.01075	1,521,655	16,358	449,051	4,827	1,072,604	11,530
50~54	0.01370	1,428,499	19,570	395,750	5,422	1,032,749	14,149
55~59	0.01873	1,316,045	24,650	344,782	6,458	971,263	18,192
60~64	0.02811	1,013,791	28,498	249,556	7,015	764,235	21,483
65~69	0.04237	757,084	32,078	179,816	7,619	577,268	24,459
70~74	0.06957	519,200	36,121	111,876	7,783	407,324	28,338
75~79	0.10646	336,975	35,874	67,191	7,153	269,784	28,721
80~	0.18454	237,381	43,806	43,770	8,077	193,611	35,729
$\sum P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			601,321		172,615		428,707
$\frac{\sum P_u(i, x) \times m_u(s, x)}{\sum P_r(i, x) \times m_r(s, x)}$			1,238,822		355,730		883,095
人口総数	$P(i)$	69,254,148		22,666,307		46,587,841	
指標死亡率	$d(i)$	0.017888		0.015694		0.018955	
標準化係数	$c(i)$	1.015597		1.157576		0.958428	
普通死亡率	$d(i)$	0.016778		0.014719		0.017779	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.017040		0.017039		0.017040	

表末の注参照。

第4表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化死亡率計算表
(つづき)

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1940(昭和15)年					
		全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_u(s,x)$	$P_u(i,x)$	$\frac{P_u(i,x)}{\times m_u(s,x)}$	$P_u(i,x)$	$\frac{P_u(i,x)}{\times m_u(s,x)}$	$P_u(i,x)$	$\frac{P_u(i,x)}{\times m_u(s,x)}$
0~4	0.02012	129,619.12	260,794	4,389,544	883.18	85,723.68	172,476
5~9							
10~14	0.00731	3,609,679	26,387	1,697,020	124.05	19,126.59	13,982
15~19							
20~24	0.00916	2,935,858	26,892	1,213,835	111.19	17,220.23	15,774
25~29	0.00782	2,725,423	21,313	1,256,490	98.26	14,689.33	11,487
30~34	0.00705	2,415,027	17,026	1,082,231	76.30	13,327.96	9,396
35~39	0.00789	2,190,226	17,281	918,838	72.50	12,713.88	10,031
40~44	0.01018	1,920,460	19,550	758,967	77.26	11,614.93	11,824
45~49	0.01429	1,614,329	23,069	598,197	85.48	10,161.32	14,521
50~54	0.02004	1,432,167	28,701	494,483	99.09	9,376.84	18,791
55~59	0.02878	1,224,234	35,233	388,058	111.68	8,361.76	24,065
60~64	0.04337	1,036,235	44,942	296,492	128.59	7,397.43	32,083
65~69	0.06192	693,299	42,929	180,216	111.59	51,308.3	31,770
70~74	0.09642	415,322	40,045	99,493	95.93	31,582.9	30,452
75~79	0.13833	213,426	29,523	45,393	62.79	16,803.3	23,244
80~	0.22338	120,459	26,908	21,926	48.98	9,553.3	22,010
$\Sigma P_u(i,x) \times m_u(s,x)$			660,593		218,687		441,906
x	$m_r(s,x)$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$
0~4	0.01881	12,700,471	238,896	4,291,934	80.731	8,408,537	158,165
5~9							
10~14	0.00865	3,614,881	31,269	1,578,511	136.54	20,363.70	17,615
15~19							
20~24	0.01008	2,971,816	29,956	1,342,047	135.98	16,227.69	16,358
25~29	0.00892	2,748,650	24,518	1,233,446	110.02	15,152.04	13,516
30~34	0.00856	2,386,595	20,429	1,010,606	86.51	13,759.89	11,778
35~39	0.00915	2,121,659	19,413	846,886	77.49	12,747.73	11,664
40~44	0.00971	1,823,462	17,706	678,909	65.92	11,445.53	11,114
45~49	0.01075	1,531,715	16,466	534,886	57.50	9,968.29	10,716
50~54	0.01370	1,408,139	19,292	464,034	63.57	9,441.05	12,934
55~59	0.01873	1,300,120	24,351	406,610	76.16	8,935.10	16,735
60~64	0.02811	1,161,143	32,640	344,239	96.77	8,169.04	22,963
65~69	0.04237	839,029	35,550	235,241	99.67	6,037.88	25,582
70~74	0.06957	563,718	39,218	151,967	105.72	41,175.1	28,646
75~79	0.10646	325,092	34,609	80,364	85.56	24,472.8	26,054
80~	0.18454	232,000	42,813	52,794	97.43	17,920.6	33,071
$\Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)$			627,126		210,215		416,911
$\frac{\Sigma P_u(i,x) \times m_u(s,x) + \Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)}{\Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)}$			1,287,719		428,902		858,817
人口総数	$P(i)$	7,123,654.6		26,700,657		4,453,588.9	
指標死亡率	$d_i(i)$	0.018077		0.016063		0.019284	
標準化係数	$c(i)$	1.004979		1.130984		0.942076	
普通死亡率	$d(i)$	0.016516		0.014351		0.017813	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.016598		0.016231		0.016781	

表末の注参照。

Table 4. Standardized Death Rates by the Indirect Method
(continued)

		1947 (昭和22)年					
年齢階級	標準人口 特殊死亡率	全 國 All Japan		市 郡 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_u(s, x)$	$P_u(i, x)$	$\frac{P_u(i, x)}{\times m_u(s, x)}$	$P_u(i, x)$	$\frac{P_u(i, x)}{\times m_u(s, x)}$	$P_u(i, x)$	$\frac{P_u(i, x)}{\times m_u(s, x)}$
0~4	0.04705	4898,106	230,456	1,570,507	73,892	3,327,599	15,6564
5~9	0.00414	4,597,406	19,033	1,385,821	5,737	3,211,585	13,296
10~14	0.00272	4,449,289	12,102	1,323,699	3,600	3,125,590	8,502
15~19	0.00731	4,144,572	30,297	1,423,774	10,408	2,720,798	19,889
20~24	0.00916	3,362,456	30,800	1,256,342	11,508	2,106,114	19,292
25~29	0.00782	2,410,913	18,853	916,616	7,168	1,494,297	11,685
30~34	0.00705	2,380,687	16,784	918,746	6,477	1,461,941	10,307
35~39	0.00789	2,329,559	18,380	876,666	6,917	1,452,893	11,463
40~44	0.01018	2,110,608	21,486	779,366	7,934	1,331,242	13,552
45~49	0.01429	1,964,211	28,069	705,201	10,077	1,259,010	17,991
50~54	0.02004	1,599,724	32,058	547,410	10,970	1,052,314	21,088
55~59	0.02978	1,316,939	37,902	417,815	12,025	899,094	25,876
60~64	0.04337	996,535	43,220	289,338	12,549	707,197	30,671
65~69	0.06192	764,449	47,335	194,622	12,051	569,827	35,284
70~74	0.09642	485,226	46,785	110,535	10,658	374,691	36,128
75~79	0.13833	213,053	29,472	43,596	6,031	169,456	23,441
80≤	0.22338	105,666	23,604	17,877	3,993	87,790	19,611
$\Sigma P_u(i, x) \times m_u(s, x)$			686,636		211,995		474,640
x	$m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$
0~4	0.04260	4,763,540	202,927	1,517,967	64,665	3,245,573	138,261
5~9	0.00437	4,501,609	19,672	1,352,059	5,908	3,149,550	13,764
10~14	0.00375	4,363,404	16,363	1,300,802	4,878	3,062,602	11,485
15~19	0.00865	4,119,285	35,632	1,381,364	11,949	2,737,921	23,683
20~24	0.01008	3,699,448	37,290	1,297,792	13,082	2,401,656	24,209
25~29	0.00892	3,080,721	27,480	1,123,569	10,022	1,957,152	17,458
30~34	0.00856	2,766,912	23,685	995,394	8,521	1,771,518	15,164
35~39	0.00915	2,552,224	23,353	911,511	8,340	1,640,713	15,013
40~44	0.00971	2,081,390	20,210	744,623	7,230	1,336,767	12,980
45~49	0.01075	1,894,634	20,367	660,673	7,102	1,233,961	13,265
50~54	0.01370	1,532,255	20,992	503,083	6,892	1,029,172	14,100
55~59	0.01873	1,327,520	24,864	411,388	7,705	916,132	17,159
60~64	0.02811	1,112,810	31,281	324,095	9,110	788,715	22,171
65~69	0.04237	955,059	40,466	258,145	10,938	696,914	29,528
70~74	0.06957	674,920	46,954	172,051	11,970	502,869	34,985
75~79	0.10646	337,192	35,897	80,983	8,621	256,209	27,276
80≤	0.18454	209,151	38,597	44,279	8,171	164,872	30,425
$\Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			666,030		205,104		460,926
$\frac{\Sigma P_u(i, x) \times m_u(s, x)}{\Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)}$			1,352,666		417,099		935,566
人口総数	$P(i)$	78,101,473		25,857,739		52,243,734	
指標死亡率	$d(i)$	0.017319		0.016131		0.017908	
標準化係数	$c(i)$	1.048964		1.126217		1.014463	
普通死亡率	$d(i)$	0.014574		0.013616		0.015048	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.015288		0.015334		0.015266	

表末の注参照。

第4表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化死亡率計算表
(つづき)

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1950(昭和25)年					
		全 国 All Japan		市 郡 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_M(s,x)$	$P_M(i,x)$	$\frac{P_M(i,x)}{\times m_M(s,x)}$	$P_M(i,x)$	$\frac{P_M(i,x)}{\times m_M(s,x)}$	$P_M(i,x)$	$\frac{P_M(i,x)}{\times m_M(s,x)}$
0~4	0.04705	5,718,809	26,9070	209,2050	98,431	3,626,759	170,639
5~9	0.00414	4,825,696	1,9978	1,739,273	7,201	3,086,423	12,778
10~14	0.00272	4,400,633	1,1970	1,456,234	3,961	2,944,399	8009
15~19	0.00731	4,317,808	3,1563	1,630,175	11,917	2,687,633	19,647
20~24	0.00916	3,836,029	35,138	1,583,358	14,504	2,252,671	20,634
25~29	0.00782	2,822,056	22,068	1,185,177	9,268	1,636,879	12,800
30~34	0.00705	2,360,372	16,641	993,238	7,002	1,367,134	9,638
35~39	0.00789	2,376,238	18,749	1,003,182	7,915	1,373,056	10,833
40~44	0.01018	2,199,078	22,387	893,501	9,096	1,305,577	13,291
45~49	0.01429	2,018,961	28,851	794,235	11,350	1,224,726	17,501
50~54	0.02004	1,719,371	34,456	651,344	13,053	1,068,027	21,403
55~59	0.02878	1,378,738	39,680	494,101	14,220	884,637	25,460
60~64	0.04337	1,109,629	48,125	368,775	15,994	740,854	32,131
65~69	0.06192	795,963	49,286	240,680	14,903	555,283	34,383
70~74	0.09642	540,321	52,098	147,070	14,180	393,251	37,917
75~79	0.13833	267,705	37,032	65,911	9,117	201,794	27,914
80≤	0.22338	124,353	27,778	26,822	5,991	97,531	21,786
$\Sigma P_M(i,x) \times m_M(s,x)$			764,870		268,103		496,764
x	$m_r(s,x)$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$	$P_r(i,x)$	$\frac{P_r(i,x)}{\times m_r(s,x)}$
0~4	0.04260	5,487,276	233,758	1,999,923	85,197	3,487,353	148,561
5~9	0.00437	4,697,504	20,528	1,693,210	7,399	3,004,294	13,129
10~14	0.00375	4,299,772	16,124	1,423,964	5,340	2,875,808	10,784
15~19	0.00865	4,250,341	36,765	1,617,452	13,991	2,632,889	22,774
20~24	0.01008	3,889,946	39,211	1,565,967	15,785	2,323,979	23,426
25~29	0.00892	3,363,412	30,002	1,405,828	12,540	1,957,584	17,462
30~34	0.00856	2,842,157	24,329	1,171,773	10,030	1,670,384	14,298
35~39	0.00915	2,672,119	24,450	1,075,694	9,843	1,596,425	14,607
40~44	0.00971	2,284,154	22,179	903,489	8,773	1,380,665	13,406
45~49	0.01075	1,985,813	21,347	771,937	8,298	1,213,876	13,049
50~54	0.01370	1,669,487	22,872	619,507	8,487	1,049,980	14,385
55~59	0.01873	1,370,445	25,668	482,792	9,043	887,653	16,626
60~64	0.02811	1,194,395	33,574	397,537	11,175	796,858	22,400
65~69	0.04237	974,851	41,304	306,844	13,001	668,007	28,303
70~74	0.06957	741,359	51,576	221,124	15,384	520,235	36,193
75~79	0.10646	417,987	44,499	117,576	12,517	300,411	31,982
80≤	0.18454	246,859	45,555	63,448	11,709	183,411	33,847
$\Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)$			733,741		258,512		475,232
$\frac{\Sigma P_M(i,x) \times m_M(s,x)}{\Sigma P_r(i,x) \times m_r(s,x)}$			1,498,611		526,615		971,996
人口総数	$P(i)$	83,199,637		31,203,191		51,996,446	
指標死亡率	$d_i(i)$	0.018012		0.016877		0.018694	
標準化係数	$c(i)$	1.008605		1.076435		0.971809	
普通死亡率	$d(i)$	0.010876		0.009156		0.011871	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.010970		0.009856		0.011537	

表末の注参照。

Table 4. Standardized Death Rates by the Indirect Method
(continued)

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1955 (昭和30)年					
		全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_M(s, x)$	$P_M(i, x)$	$\frac{P_M(i, x)}{\times m_M(s, x)}$	$P_M(i, x)$	$\frac{P_M(i, x)}{\times m_M(s, x)}$	$P_M(i, x)$	$\frac{P_M(i, x)}{\times m_M(s, x)}$
0~4	0.04705	4,726,375	222,376	2,469,554	116,193	2,256,821	106,183
5~9	0.00414	5,636,545	23,335	3,063,533	12,683	2,573,012	10,652
10~14	0.00272	4,815,846	13,099	2,608,324	7,095	2,207,522	6,004
15~19	0.00731	4,341,411	31,736	2,596,559	18,981	1,744,852	12,755
20~24	0.00916	4,196,455	38,440	2,584,613	23,675	1,611,842	14,764
25~29	0.00782	3,775,418	29,524	2,251,807	17,609	1,523,611	11,915
30~34	0.00705	2,797,266	19,721	1,659,473	11,699	1,137,793	8,021
35~39	0.00789	2,319,520	18,301	1,368,582	10,798	950,938	7,503
40~44	0.01018	2,324,772	23,666	1,373,617	13,983	951,155	9,683
45~49	0.01429	2,135,535	30,517	1,228,122	17,550	907,413	12,967
50~54	0.02004	1,929,268	38,663	1,079,789	21,639	849,479	17,024
55~59	0.02878	1,607,718	46,270	874,180	25,159	733,538	21,111
60~64	0.04337	1,226,805	53,207	642,367	27,859	584,438	25,347
65~69	0.06192	919,065	56,909	461,461	28,574	457,604	28,335
70~74	0.09642	593,782	57,252	284,290	27,411	309,492	29,841
75~79	0.13833	342,062	47,317	153,989	21,301	188,073	26,016
80~	0.22338	172,875	38,617	72,693	16,238	100,182	22,379
$\Sigma P_M(i, x) \times m_M(s, x)$			788,950		418,447		370,500
x	$m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$
0~4	0.04260	4,521,453	192,614	2,354,712	100,311	2,166,741	92,303
5~9	0.00437	5,406,151	23,625	2,930,536	12,806	2,475,615	10,818
10~14	0.00375	4,692,060	17,595	2,541,551	9,531	2,150,509	8,064
15~19	0.00865	4,284,189	37,058	2,505,047	21,669	1,779,142	15,390
20~24	0.01008	4,206,867	42,405	2,531,441	25,517	1,675,426	16,888
25~29	0.00892	3,828,981	34,155	2,303,807	20,550	1,525,174	13,605
30~34	0.00856	3,319,724	28,417	1,973,266	16,891	1,346,458	11,526
35~39	0.00915	2,795,654	25,580	1,638,946	14,996	1,156,708	10,584
40~44	0.00971	2,620,604	25,446	1,512,118	14,683	1,108,486	10,763
45~49	0.01075	2,231,679	23,991	1,267,896	13,630	963,783	10,361
50~54	0.01370	1,920,259	26,308	1,073,615	14,709	846,644	11,599
55~59	0.01873	1,597,826	29,927	866,406	16,228	731,420	13,699
60~64	0.02811	1,269,812	35,694	667,913	18,775	601,899	16,919
65~69	0.04237	1,047,973	44,403	536,071	22,713	511,902	21,689
70~74	0.06957	798,893	55,579	398,002	27,689	400,891	27,890
75~79	0.10646	533,647	56,812	257,825	27,448	275,822	29,364
80~	0.18454	339,039	62,566	155,921	28,774	183,118	33,793
$\Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			762,175		406,920		355,255
$\frac{\Sigma P_M(i, x) \times m_M(s, x)}{\Sigma P_r(i, x) \times m_r(s, x)}$			1.551125		825.367		725.755
人口総数	$P(i)$	89,275,529		50,288,026		38,987,503	
指標死亡率	$d(i)$	0.017375		0.016413		0.018615	
標準化係数	$c(i)$	1.045583		1.106867		0.975933	
普通死亡率	$d(i)$	0.007768		0.006855		0.008891	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.008122		0.007588		0.008677	

表末の注参照。

第4表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化死亡率計算表
(つづき)

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1960 (昭和35)年					
		全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_x(s, x)$	$P_M(i, x)$	$\frac{P_M(i, x)}{\times m_M(s, x)}$	$P_U(i, x)$	$\frac{P_U(i, x)}{\times m_U(s, x)}$	$P_R(i, x)$	$\frac{P_R(i, x)}{\times m_R(s, x)}$
0~4	0.04705	4,012,563	188,791	2,441,208	114,859	1,571,355	7,3932
5~9	0.00414	4,702,331	19,468	2,714,927	11,240	1,987,404	8,228
10~14	0.00272	5,620,477	15,288	3,364,428	9,151	2,256,049	6,136
15~19	0.00731	4,677,763	34,194	3,308,931	24,188	1,368,832	10,006
20~24	0.00916	4,125,266	37,787	2,995,281	27,437	1,129,985	10,351
25~29	0.00782	4,094,656	32,020	2,810,404	21,977	1,284,252	10,043
30~34	0.00705	3,746,898	26,416	2,462,939	17,364	1,283,959	9,052
35~39	0.00789	2,763,208	21,802	1,786,631	14,097	976,577	7,705
40~44	0.01018	2,274,344	23,153	1,458,563	14,848	815,781	8,305
45~49	0.01429	2,256,804	32,250	1,448,685	20,702	808,119	11,548
50~54	0.02004	2,040,674	40,895	1,276,510	25,581	764,164	15,314
55~59	0.02878	1,802,182	51,867	1,098,596	31,618	703,586	20,249
60~64	0.04337	1,437,574	62,348	850,594	36,890	586,980	25,457
65~69	0.06192	1,026,993	63,591	586,124	36,293	440,869	27,299
70~74	0.09642	693,566	66,874	382,460	36,877	311,106	29,997
75~79	0.13833	376,706	52,110	192,211	27,557	177,495	24,553
80~	0.22338	225,597	50,394	111,562	24,921	114,035	25,473
$\Delta P_M(i, x) \times m_M(s, x)$			819,248		495,600		323,648
x	$m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$
0~4	0.04260	3,831,870	163,238	2,323,431	98,978	1,508,439	64,260
5~9	0.00437	4,502,304	19,675	2,592,217	11,328	1,910,087	8,347
10~14	0.00375	5,397,061	20,239	3,221,968	12,082	2,175,093	8,157
15~19	0.00865	4,630,775	40,056	3,181,585	27,521	1,449,190	12,535
20~24	0.01008	4,193,184	42,267	2,894,415	29,176	1,298,769	13,092
25~29	0.00892	4,114,704	36,703	2,804,139	25,013	1,310,535	11,690
30~34	0.00856	3,770,907	32,279	2,482,364	21,249	1,288,543	11,030
35~39	0.00915	3,274,822	29,965	2,116,877	19,369	1,157,945	10,595
40~44	0.00971	2,744,786	26,652	1,751,055	17,003	993,731	9,649
45~49	0.01075	2,559,755	27,517	1,613,477	17,345	946,278	10,172
50~54	0.01370	2,160,716	29,602	1,341,469	18,378	819,247	11,224
55~59	0.01873	1,839,025	34,445	1,122,899	21,032	716,126	13,413
60~64	0.02811	1,494,043	41,998	887,907	24,959	606,136	17,038
65~69	0.04237	1,133,409	48,023	655,459	27,772	477,950	20,251
70~74	0.06957	870,238	60,542	492,050	34,232	378,188	26,311
75~79	0.10646	577,972	61,531	319,340	33,997	258,632	27,534
80~	0.18454	445,328	82,181	235,594	43,477	209,734	38,704
$\Delta P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			794,913		482,911		314,002
$\Delta P_M(i, x) \times m_M(s, x) + \Delta P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			1,614,161		978,511		637,650
人口総数	$P(i)$	934,185,01		593,333,30		340,851,71	
指標死亡率	$d(i)$	0.017300		0.016492		0.018708	
標準化係数	$c(i)$	1.050116		1.101564		0.971082	
普通死亡率	$d(i)$	0.007564		0.006827		0.008783	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.007943		0.007521		0.008530	

表末の注参照。

Table 4. Standardized Death Rates by the Indirect Method (continued)

年齢階級	標準人口 特殊死亡率	1965 (昭和40)年					
		全 国 All Japan		市 部 Urban		郡 部 Rural	
x	$m_M(s, x)$	$P_M(i, x)$	$\frac{P_M(i, x)}{\times m_M(s, x)}$	$P_M(i, x)$	$\frac{P_M(i, x)}{\times m_M(s, x)}$	$P_M(i, x)$	$\frac{P_M(i, x)}{\times m_M(s, x)}$
0~4	0.04705	4,149,581	19,523.8	2,874,583	13,524.9	1,274,998	5,998.9
5~9	0.00414	3,995,011	1,653.9	2,537,088	1,050.4	1,457,923	6,036
10~14	0.00272	4,670,170	1,270.3	2,833,112	770.6	1,837,058	4,997
15~19	0.00731	5,478,341	40,047	3,925,925	28,699	1,552,416	11,348
20~24	0.00916	4,496,297	41,186	3,561,215	32,621	935,082	8,565
25~29	0.00782	4,157,028	32,508	3,141,128	24,564	1,015,900	7,944
30~34	0.00705	4,147,254	29,238	2,969,066	20,932	1,178,188	8,306
35~39	0.00789	3,747,509	29,568	2,565,729	20,244	1,181,780	9,324
40~44	0.01018	2,729,666	27,789	1,837,798	18,709	891,868	9,079
45~49	0.01429	2,224,594	31,789	1,482,871	21,190	741,723	10,599
50~54	0.02004	2,172,903	43,545	1,444,588	28,950	728,315	14,595
55~59	0.02878	1,930,469	55,559	1,251,535	36,019	678,934	19,540
60~64	0.04337	1,625,089	70,480	1,023,941	44,408	601,148	26,072
65~69	0.06192	1,218,867	75,472	744,242	46,083	474,625	29,389
70~74	0.09642	788,994	76,075	464,676	44,804	324,318	31,271
75~79	0.13833	451,871	62,507	257,563	35,629	194,308	26,879
80≤	0.22338	260,801	58,258	141,188	31,539	119,613	26,719
$\sum P_M(i, x) \times m_M(s, x)$			898,500		587,850		310,652
x	$m_r(s, x)$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$	$P_r(i, x)$	$\frac{P_r(i, x)}{\times m_r(s, x)}$
0~4	0.04260	3,983,902	16,971.4	2,757,544	11,747.1	1,226,358	5,224.3
5~9	0.00437	3,854,281	1,684.3	2,440,615	1,066.5	1,413,666	6,178
10~14	0.00375	4,513,237	1,692.5	2,729,648	1,023.6	1,783,589	6,688
15~19	0.00865	5,373,547	46,481	3,804,597	32,910	1,568,950	13,571
20~24	0.01008	4,572,392	46,090	3,462,178	34,899	1,110,214	11,191
25~29	0.00892	4,206,801	37,525	3,113,912	27,776	1,092,889	9,749
30~34	0.00856	4,110,076	35,182	2,920,295	24,998	1,189,781	10,185
35~39	0.00915	3,751,030	34,322	2,565,452	23,474	1,185,578	10,848
40~44	0.00971	3,231,736	31,380	2,165,318	21,025	1,066,418	10,355
45~49	0.01075	2,697,217	28,995	1,784,455	19,183	912,762	9,812
50~54	0.01370	2,485,095	34,046	1,625,642	22,271	859,453	11,775
55~59	0.01873	2,071,540	38,800	1,334,639	24,998	736,901	13,802
60~64	0.02811	1,719,370	48,331	1,086,869	30,552	632,501	17,780
65~69	0.04237	1,343,444	56,922	826,118	35,003	517,326	21,919
70~74	0.06957	955,567	66,479	573,195	39,877	382,372	26,602
75~79	0.10646	644,043	85,655	378,323	40,276	265,720	28,289
80≤	0.18454	517,238	95,451	293,573	54,176	223,665	41,275
$\sum P_r(i, x) \times m_r(s, x)$			872,051		569,790		302,262
$\frac{\sum P_M(i, x) \times m_M(s, x)}{\sum P_r(i, x) \times m_r(s, x)}$			1,770,551		1,157,640		612,914
人口総数	$P(i)$	98,274,961		66,918,621		31,356,340	
指標死亡率	$d_i(i)$	0.018016		0.017299		0.019547	
標準化係数	$c(i)$	1.008381		1.050176		0.929401	
普通死亡率	$d(i)$	0.007127		0.006291		0.008855	
標準化死亡率	$d_s(i)$	0.007187		0.006607		0.008230	

表末の注参照。

第4表 昭和5年全国人口を標準とする間接標準化死亡率計算表(つづき)

〔注〕

任意標準人口標準化法の間接法による。

標準人口は昭和5(1930)年全国人口。

標準死亡率 $d(s) = 0.018167$ (昭5 $d(i)$)

$$d_i(i) = \frac{\sum P_y(i, x) \cdot m_y(s, x) + \sum P_r(i, x) \cdot m_r(s, x)}{P(i)}$$

$$c(i) = \frac{d(s)}{d_i(i)} \quad d(i) = \frac{D(i)}{P(i)}$$

$$d_s(i) = d(i) \cdot c(i)$$

率算出の基礎数値である年齢別人口および死亡数において、年齢不詳のある場合は、それぞれの既知の年齢別数値をウエートとして案分し、各年齢に含めてある。

なお、戦前の数値には沖縄県を含む。ただし、昭和15年は市部郡部別の年齢別人口が沖縄を除いた結果しかわかつていないので、それによっている。また、15年人口は全人口であるが日本人のみである。

参考図5 標準化および普通死亡率の全国・市部・郡部別比較

